

4. 市民・事業者アンケート調査結果

再生可能エネルギーの取組に関するアンケート結果【市民】

【対象】大東市内在住の18歳以上の市民 1,500世帯（無作為抽出）

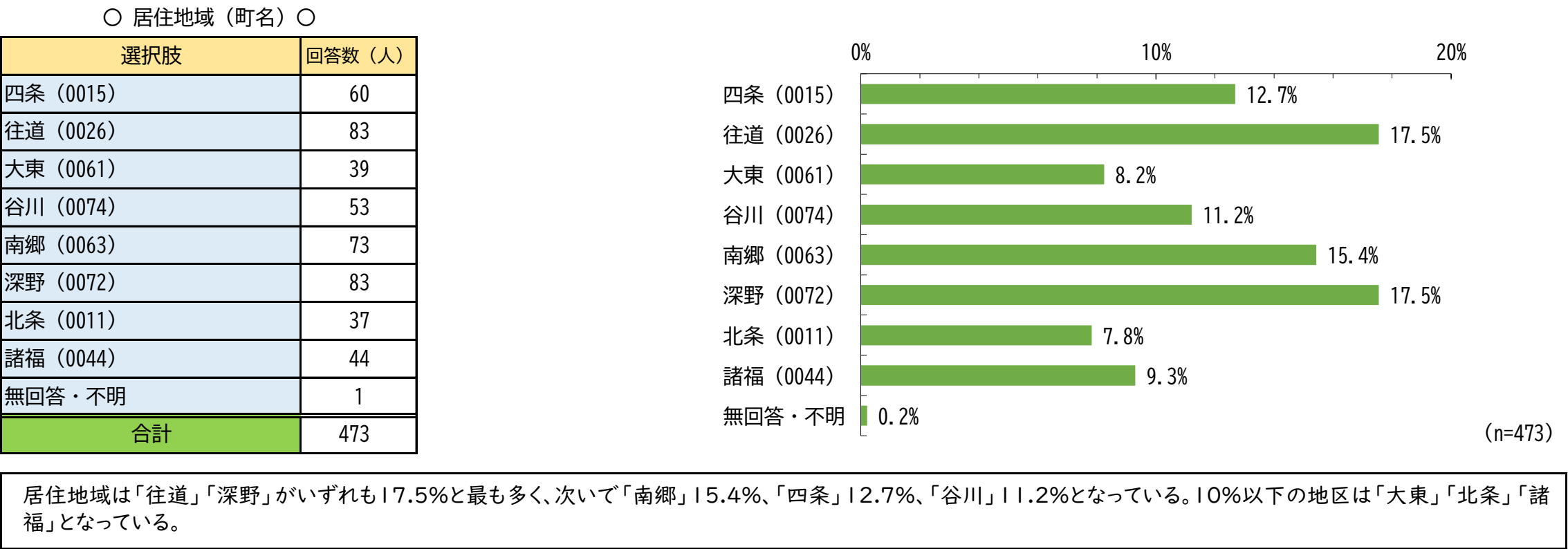
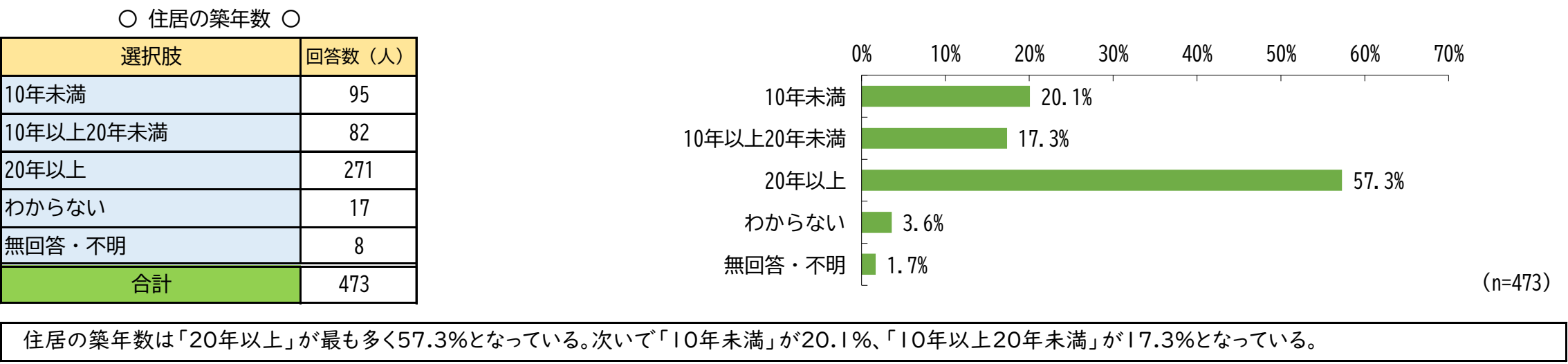
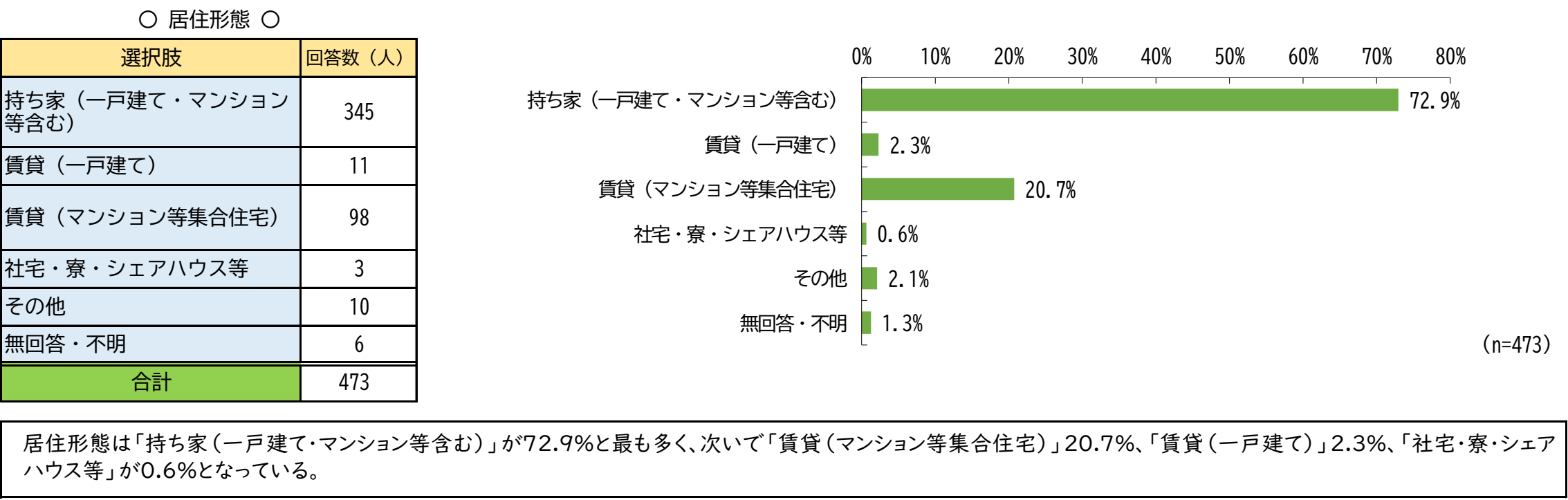
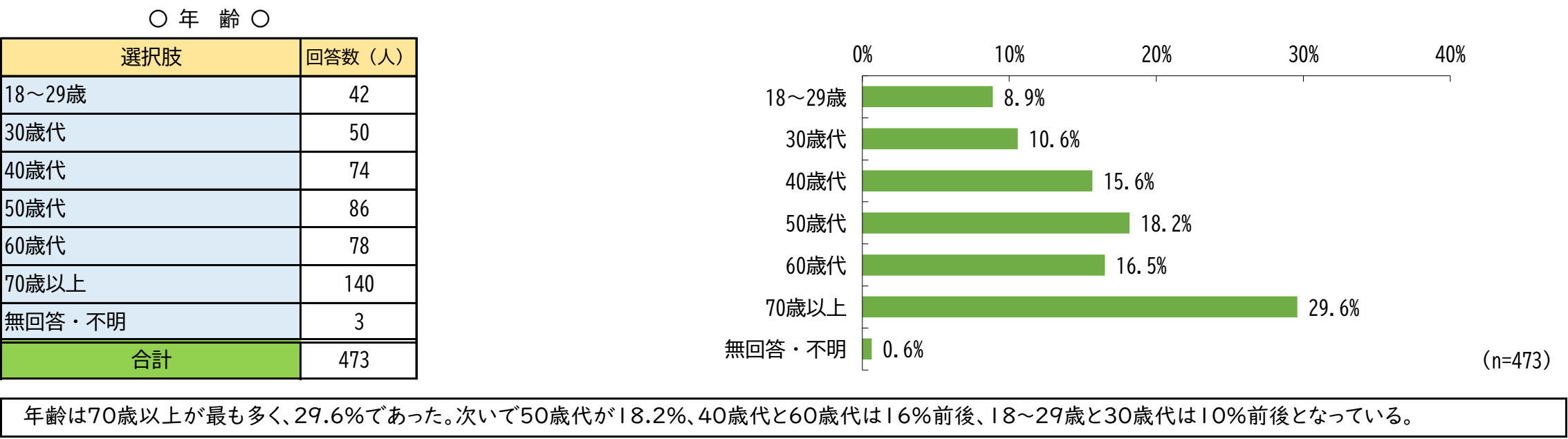
【調査方法】郵送方式（料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送）またはWEB回答

【調査期間】2023年8月2日（水）～8月25日（金）

【回収状況】配布：1,500 有効回収票：473通（紙：369通、WEB：104通）⇒ 有効回収率：31.53%

1. あなたご自身のことについて

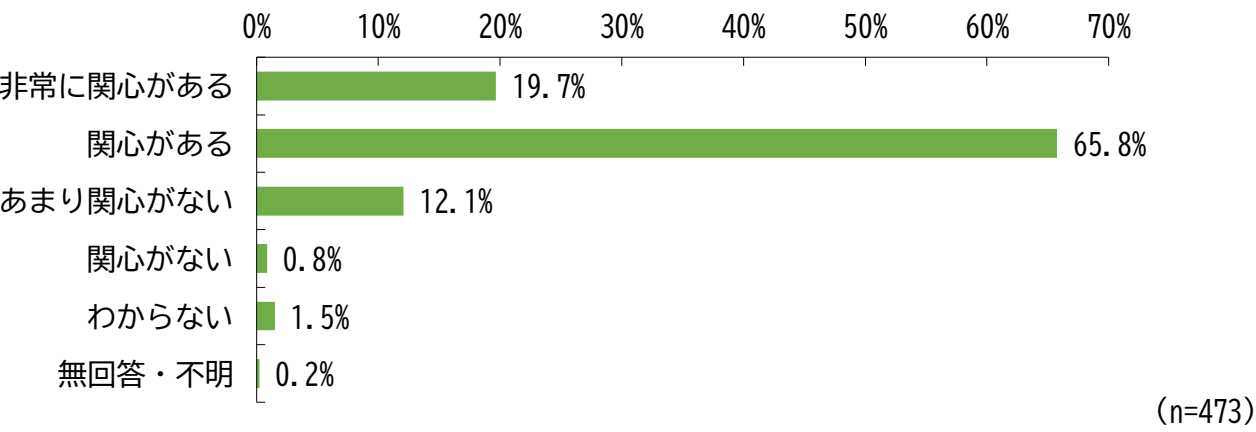
問1. 以下の項目それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んでください。



2. 地球温暖化についてのあなたの考え

問2. あなたは、地球温暖化や気候変動問題について関心がありますか。1つ選んでください。

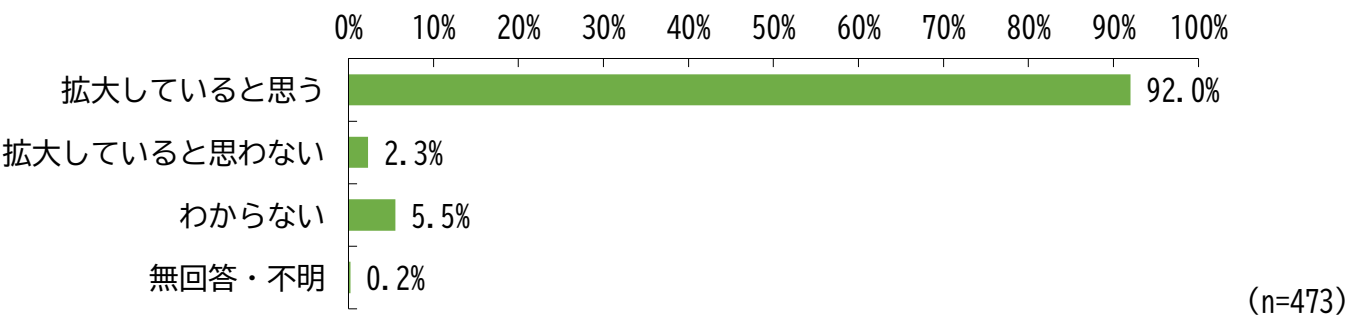
選択肢	回答数（人）
非常に関心がある	93
関心がある	311
あまり関心がない	57
関心がない	4
わからない	7
無回答・不明	1
合計	473



地球温暖化や気候変動問題については「関心がある」が最も多く65.8%であり、次いで「非常に関心がある」が19.7%。「あまり関心がない」が12.1%、「関心がない」「わからない」が1%前後となっており、約86%の市民が関心を示している。

問3. あなたは、地球温暖化による影響が拡大していると思いますか。1つ選んでください。

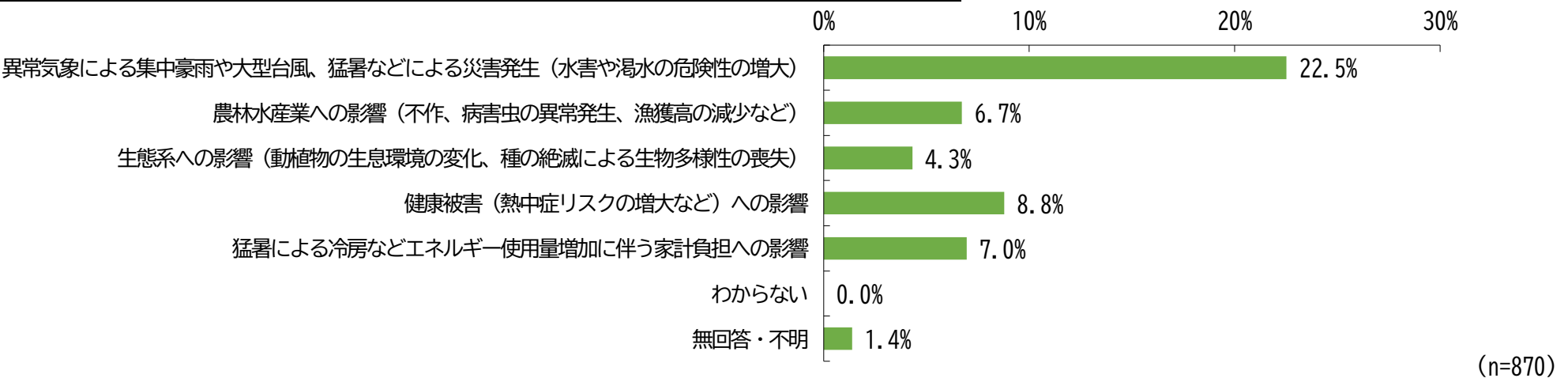
選択肢	回答数（人）
拡大していると思う	435
拡大していると思わない	11
わからない	26
無回答・不明	1
合計	473



地球温暖化による影響については「拡大していると思う」が92.0%、「拡大していると思わない」「わからない」が10%以下となっている。約90%以上の市民が認識しているという状況である。

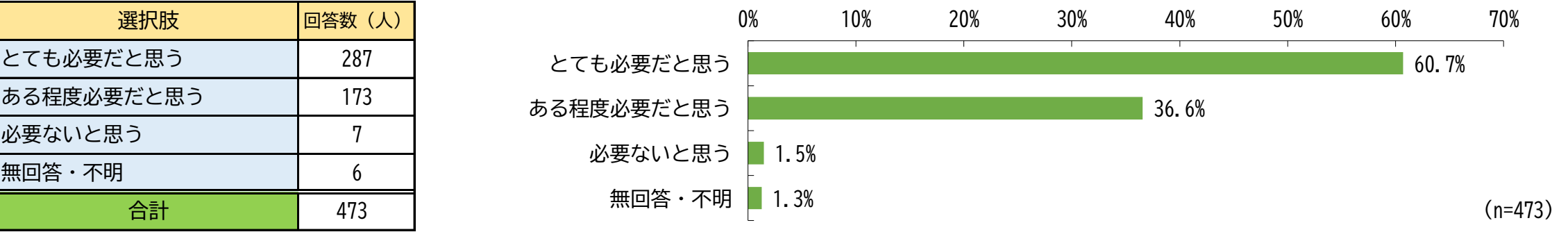
問4. 問3にて、【拡大していると思う】を選んだ方にお尋ねします。地球温暖化の影響について最も不安に感じることは何ですか。2つ選んでください。

選択肢	回答数（人）
異常気象による集中豪雨や大型台風、猛暑などによる災害発生（水害や渇水の危険性の増大）	392
農林水産業への影響（不作、病害虫の異常発生、漁獲高の減少など）	117
生態系への影響（動植物の生息環境の変化、種の絶滅による生物多様性の喪失）	75
健康被害（熱中症リスクの増大など）への影響	153
猛暑による冷房などエネルギー使用量増加に伴う家計負担への影響	121
わからない	0
無回答・不明	12
合計	870



地球温暖化の影響について最も不安に感じることは「異常気象による集中豪雨や大型台風、猛暑などによる災害発生（水害や渇水の危険性の増大）」が22.5%と最も多く、「健康被害（熱中症リスクの増大など）への影響」「猛暑による冷房などエネルギー使用量増加に伴う家計負担への影響」等の健康や家計、農林水産業、生態系への影響懸念はいずれも10%以下となっている。

問5. あなたは、地球温暖化対策は必要だと思いますか。1つ選んでください。

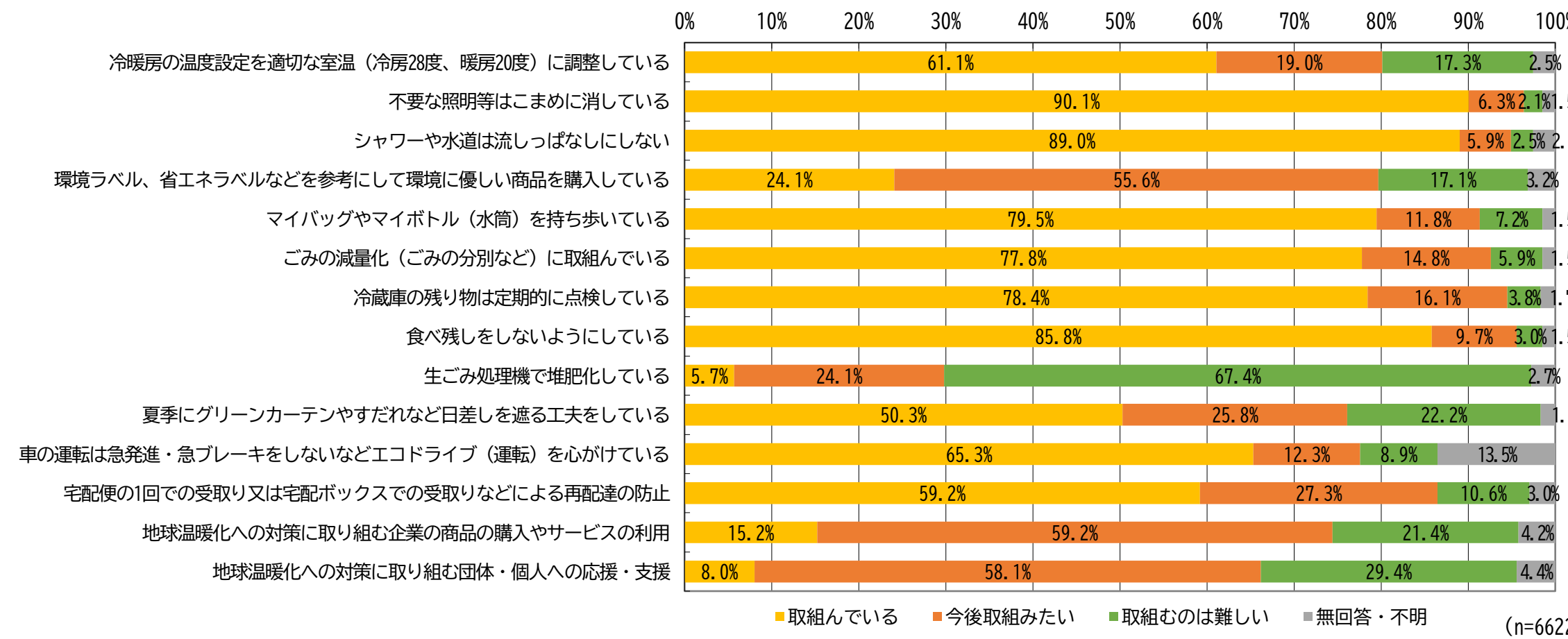


地球温暖化対策の必要性については「とても必要だと思う」が60.7%、「ある程度必要だと思う」が36.6%となっており、合計で約97%の市民が地球温暖化対策の必要性を感じている。

3.ご家庭における温暖化対策について

問6. 地球温暖化防止の取組に関して、あなたの現在の取組状況について、項目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

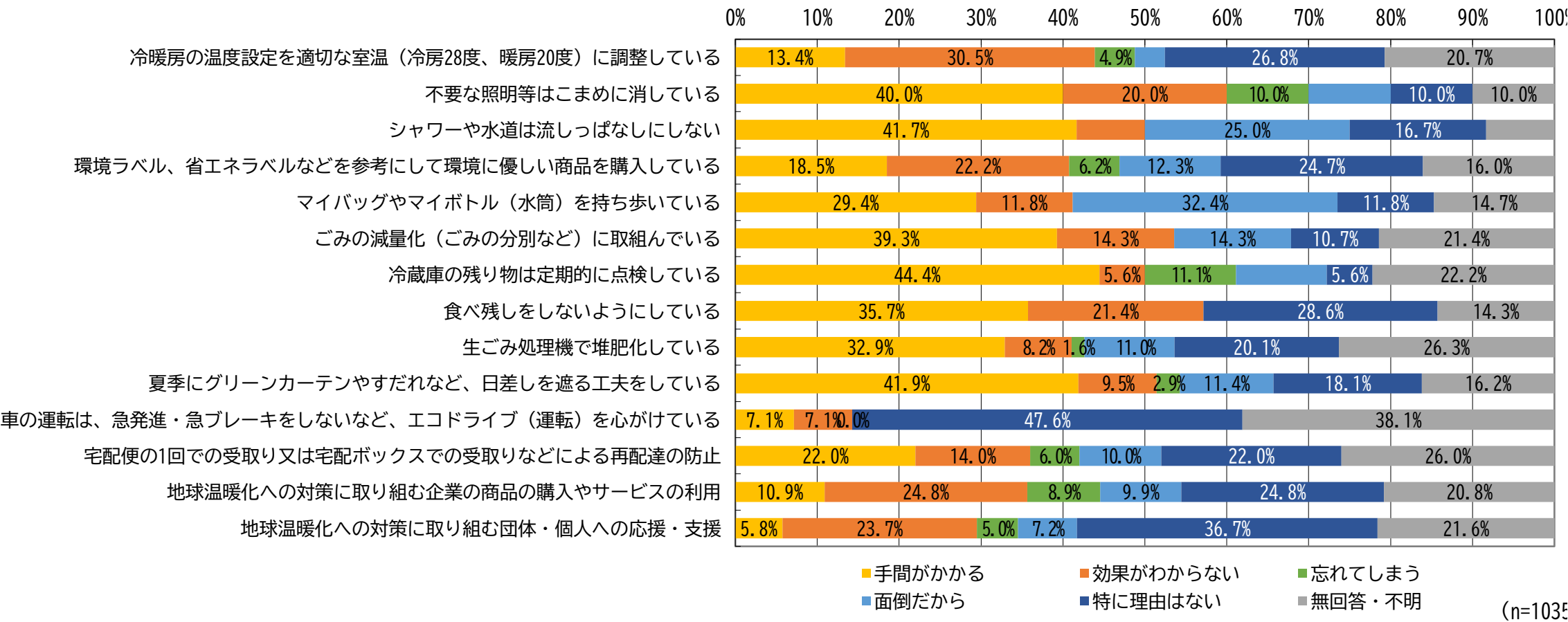
選択肢	回答数（人）				
	取組んでいる	今後取組みたい	取組むのは難しい	無回答・不明	回答計
冷暖房の温度設定を適切な室温（冷房28度、暖房20度）に調整している	289	90	82	12	473
不要な照明等はこまめに消している	426	30	10	7	473
シャワーや水道は流しっぱなしにしない	421	28	12	12	473
環境ラベル、省エネラベルなどを参考にして環境に優しい商品を購入している	114	263	81	15	473
マイバッグやマイボトル（水筒）を持ち歩いている	376	56	34	7	473
ごみの減量化（ごみの分別など）に取組んでいる	368	70	28	7	473
冷蔵庫の残り物は定期的に点検している	371	76	18	8	473
食べ残しをしないようにしている	406	46	14	7	473
生ごみ処理機で堆肥化している	27	114	319	13	473
夏季にグリーンカーテンやすだれなど日差しを遮る工夫をしている	238	122	105	8	473
車の運転は急発進・急ブレーキをしないなどエコドライブ（運転）を心がけている	309	58	42	64	473
宅配便の1回での受取り又は宅配ボックスでの受取りなどによる再配達の防止	280	129	50	14	473
地球温暖化への対策に取り組む企業の商品の購入やサービスの利用	72	280	101	20	473
地球温暖化への対策に取り組む団体・個人への応援・支援	38	275	139	21	473
合計	3,735	1,637	1,035	215	6,622



地球温暖化防止対策として現在取り組んでいる内容は「不要な照明等はこまめに消している」「シャワーや水道は流しっぱなしにしない」が最も多く、今後取り組みたい内容としては「地球温暖化への対策に取り組む企業の商品の購入やサービスの利用」「地球温暖化への対策に取り組む団体・個人への応援・支援」、取り組むのが難しいと感じている内容としては「生ごみ処理機で堆肥化」が最も多い割合となっている。

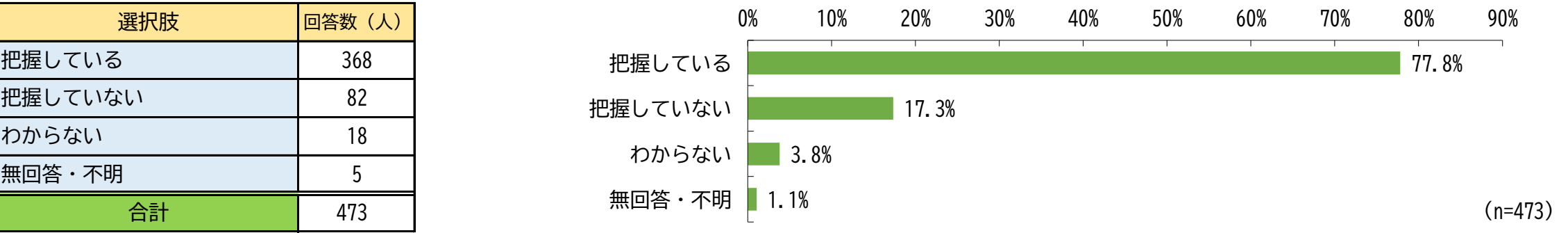
【取り組むのは難しい】と回答した方は、行動を妨げる主な理由を選んでください。

行動を妨げる主な理由	回答数（人）						
	手間がかかる	効果がわからない	忘れてしまう	面倒だから	特に理由はない	無回答・不明	回答計
冷暖房の温度設定を適切な室温（冷房28度、暖房20度）に調整している	11	25	4	3	22	17	82
不要な照明等はこまめに消している	4	2	1	1	1	1	10
シャワーや水道は流しっぱなしにしない	5	1	0	3	2	1	12
環境ラベル、省エネラベルなどを参考にして環境に優しい商品を購入している	15	18	5	10	20	13	81
マイバッグやマイボトル（水筒）を持ち歩いている	10	4	0	11	4	5	34
ごみの減量化（ごみの分別など）に取り組んでいる	11	4	0	4	3	6	28
冷蔵庫の残り物は定期的に点検している	8	1	2	2	1	4	18
食べ残しをしないようにしている	5	3	0	0	4	2	14
生ごみ処理機で堆肥化している	105	26	5	35	64	84	319
夏季にグリーンカーテンやすだれなど、日差しを遮る工夫をしている	44	10	3	12	19	17	105
車の運転は急発進・急ブレーキをしないなど、エコドライブ（運転）を心がけている	3	3	0	0	20	16	42
宅配便の1回での受取り又は宅配ボックスでの受取りなどによる再配達の防止	11	7	3	5	11	13	50
地球温暖化への対策に取り組む企業の商品の購入やサービスの利用	11	25	9	10	25	21	101
地球温暖化への対策に取り組む団体・個人への応援・支援	8	33	7	10	51	30	139
合計	251	162	39	106	247	230	1,035



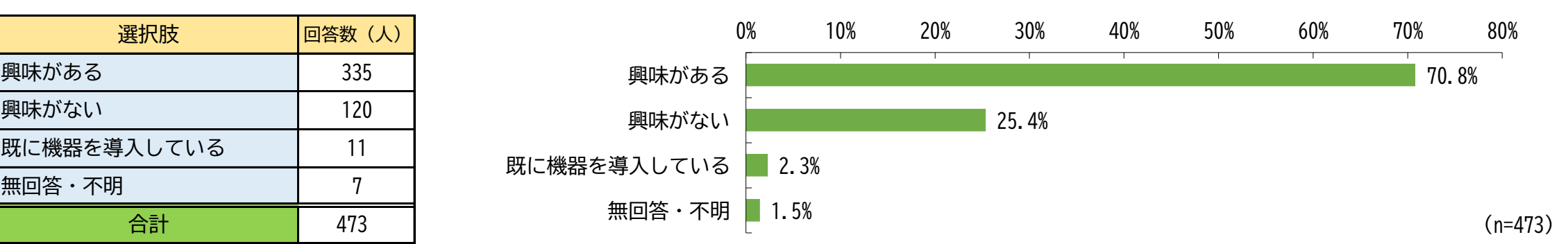
さまざまな地球温暖化防止対策への取り組みを妨げる主な理由としては「手間がかかる」が最も多く、次いで「特に理由はない」「効果が分からない」「面倒だから」と続いている。また「手間がかかる」内容としては「冷蔵庫の残り物は定期的に点検している」の割合が最も多く、「効果が分からない」内容としては「冷暖房の温度設定を適切な室温（冷房28度、暖房20度）に調整している」の割合が最も多い結果となっている。

問7. 地球温暖化を防止するためには、家庭における省エネ対策が重要です。省エネは自分たちの家庭で使用している電気やガスなどをどれくらい使っているか把握することが大切です。あなたは、家庭の電気やガスなどの料金や使用量を毎月把握していますか。1つ選んでください。



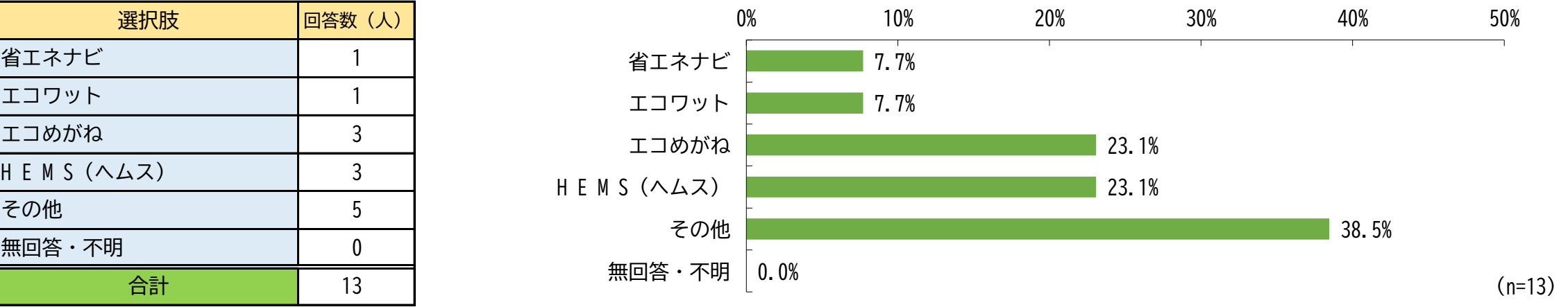
家庭での電気やガスなどの料金、使用量についての把握状況は「把握している」が77.8%、「把握していない」が17.3%となっている。

問8. あなたは電力などのエネルギー消費量やその推移をリアルタイムで確認することができるエネルギーの「見える化」に興味はありますか。1つ選んでください。



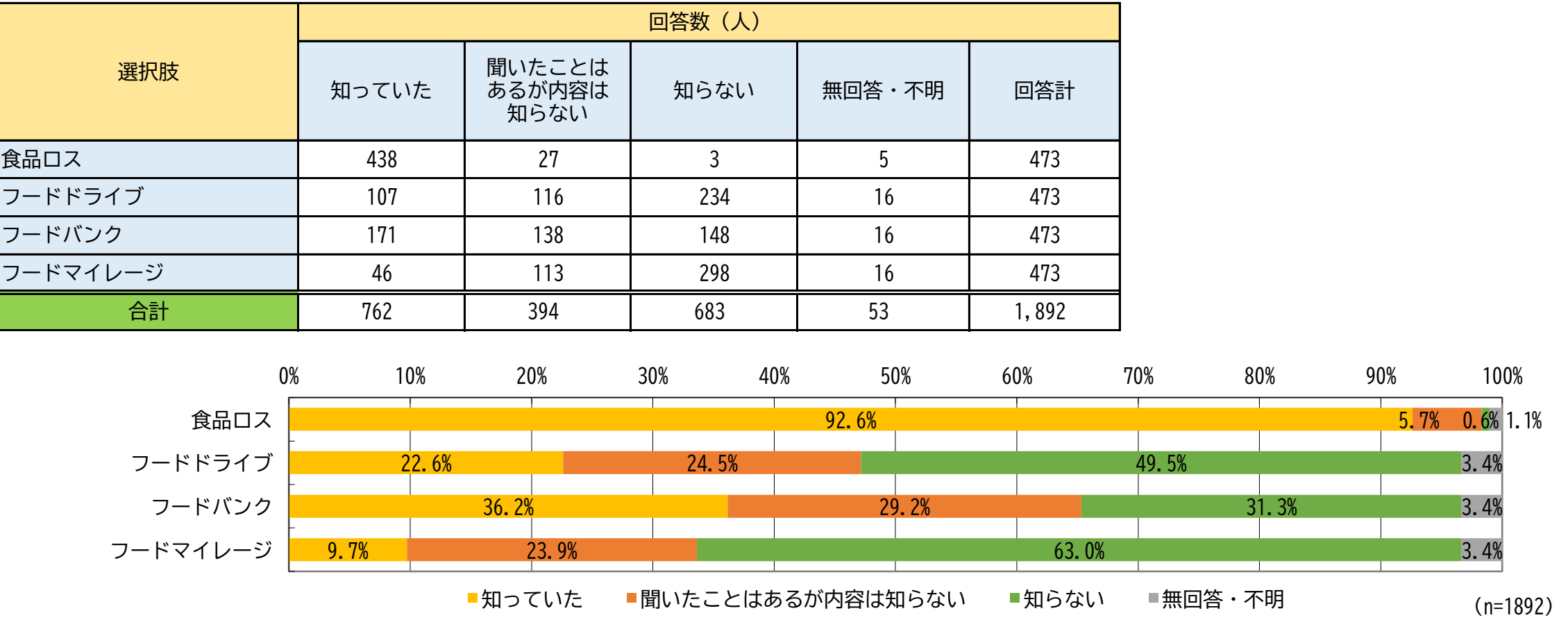
エネルギーの「見える化」に対する興味については「興味がある」が70.8%、「興味がない」が25.4%となっている。また「既に機器を導入している」が2.3%となっており、わずかではあるが実践している家庭も見られる状況である。

問9. 問8の【既に機器を導入している】を選んだ方にお尋ねします。あなたはどんな設備を導入されていますか。あてはまるものをすべて選んでください。



エネルギーの「見える化」に関する導入設備としては「HEMS（ヘムス）」「エコめがね」がいずれも23.1%、「省エネナビ」「エコワット」がいずれも7.7%となっている。また「その他」の内容としては、各ガス会社や電力会社がサービス提供している、エネルギー使用量の確認アプリやWEBサイトの利用が見られた。

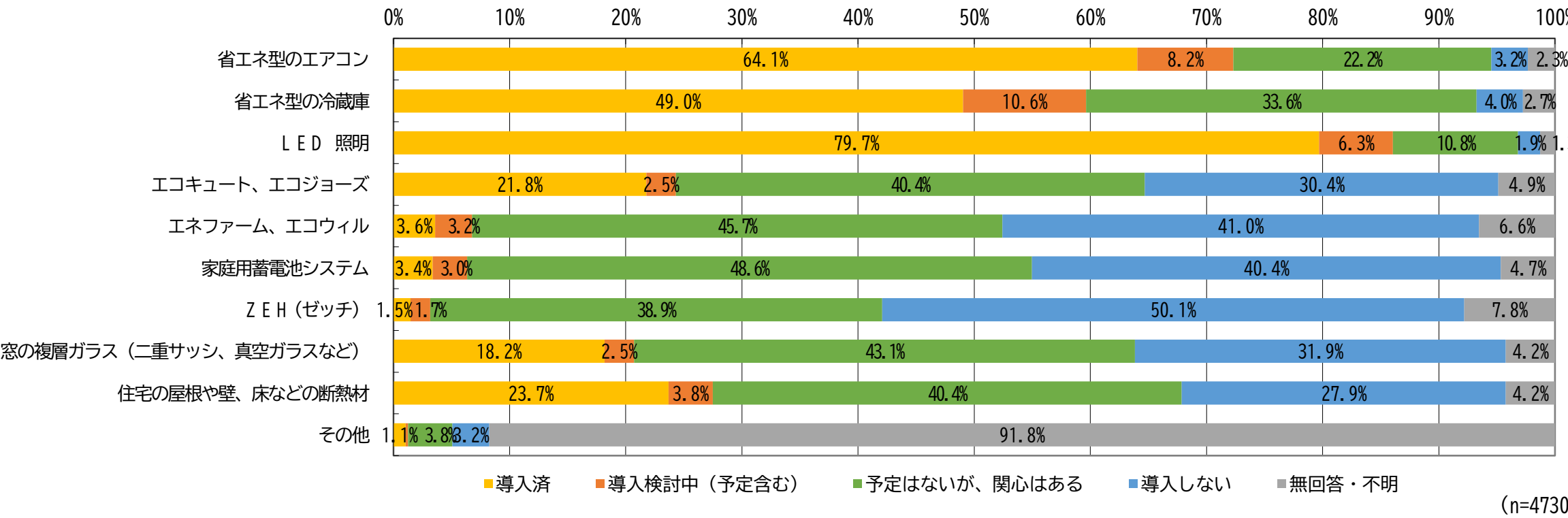
問10. 次に、まだ食べられるのに捨てられる食品「食品ロス」に関することでお尋ねします。あなたは、以下に示す言葉を知っていましたか。1つ選んでください。



「食品ロス」に関する言葉として「知っていた」が最も多かったのは「食品ロス」の92.6%であった。「フードドライブ」「フードバンク」については「知っていた」「聞いたことはあるが内容は知らない」において全体の約半数以上に認知が広まっている。一方「フードマイレージ」については63.0%が「知らない」と回答している。

問11. 地球温暖化対策につながる取組に関して、次の省エネ設備等について導入しているものはありますか。項目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

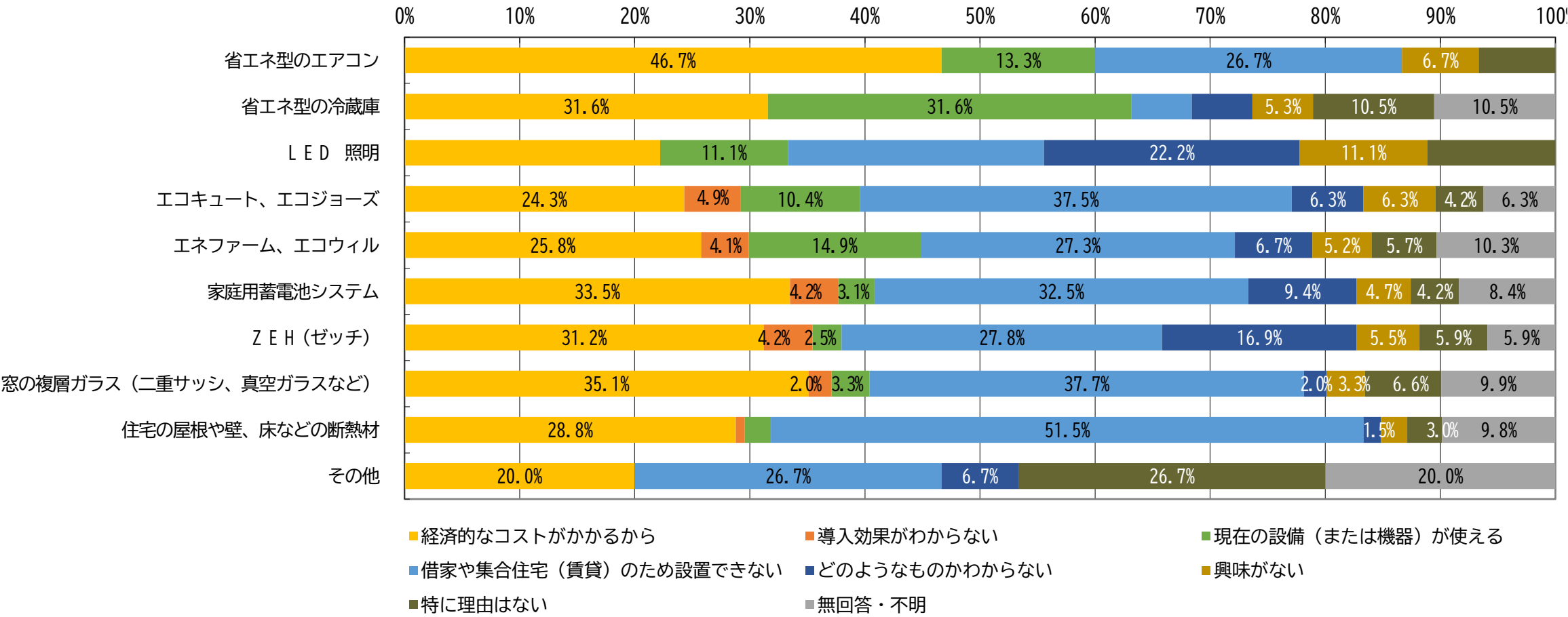
選択肢	回答数（人）					
	導入済	導入検討中（予定含む）	予定はないが 関心はある	導入しない	無回答・不明	回答計
省エネ型のアコン	303	39	105	15	11	473
省エネ型の冷蔵庫	232	50	159	19	13	473
L E D 照明	377	30	51	9	6	473
エコキュート、エコジョーズ	103	12	191	144	23	473
エネファーム、エコウィル	17	15	216	194	31	473
家庭用蓄電池システム	16	14	230	191	22	473
Z E H（ゼッチ）	7	8	184	237	37	473
窓の複層ガラス（二重サッシ、真空ガラスなど）	86	12	204	151	20	473
住宅の屋根や壁、床などの断熱材	112	18	191	132	20	473
その他	5	1	18	15	434	473
合計	1,258	199	1,549	1,107	617	4,730



省エネ設備等の導入状況として最も多いのは「LED照明」で79.7%、次いで「省エネ型のアコン」が64.1%、「省エネ型の冷蔵庫」が49.0%となっている。一方、ZEH（ゼッチ）については50.1%が「導入しない」と回答している。

【導入しない】を選んだ方は、導入しない主な理由を選んでください。

選択肢	回答数（人）								
	経済的なコストがかかるから	導入効果がわからない	現在の設備（または機器）が使える	借家や集合住宅（賃貸）のため設置できない	どのようなものかわからない	興味がない	特に理由はない	無回答・不明	回答計
省エネ型のエアコン	7	0	2	4	0	1	1	0	15
省エネ型の冷蔵庫	6	0	6	1	1	1	2	2	19
L E D 照明	2	0	1	2	2	1	1	0	9
エコキュート、エコジョーズ	35	7	15	54	9	9	6	9	144
エネファーム、エコウィル	50	8	29	53	13	10	11	20	194
家庭用蓄電池システム	64	8	6	62	18	9	8	16	191
Z E H（ゼッチ）	74	10	6	66	40	13	14	14	237
窓の複層ガラス（二重サッシ、真空ガラスなど）	53	3	5	57	3	5	10	15	151
住宅の屋根や壁、床などの断熱材	38	1	3	68	2	3	4	13	132
その他	3	0	0	4	1	0	4	3	15
合計	332	37	73	371	89	52	61	92	1,107



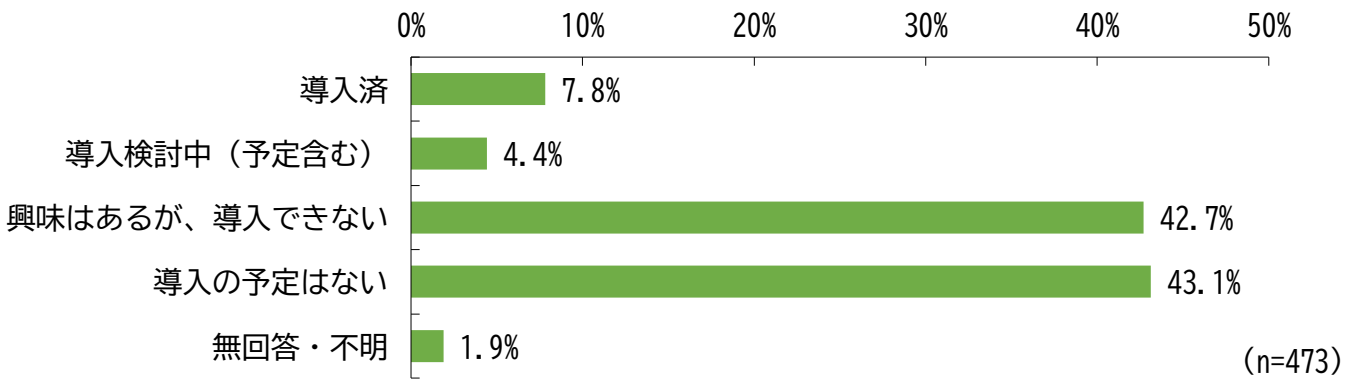
(n=1107)

省エネ設備等を導入しない主な理由としては、居住形態や経済面が大きく関わっている傾向にあり、「借家や集合住宅（賃貸）のため設置できない」が最も多く平均33.5%、次いで「経済的なコストがかかるから」が平均30.0%であった。

4.再生可能エネルギーについて

問12.あなたのご家庭では、再生可能エネルギーを利用した機器、製品を導入していますか。1つ選んでください。

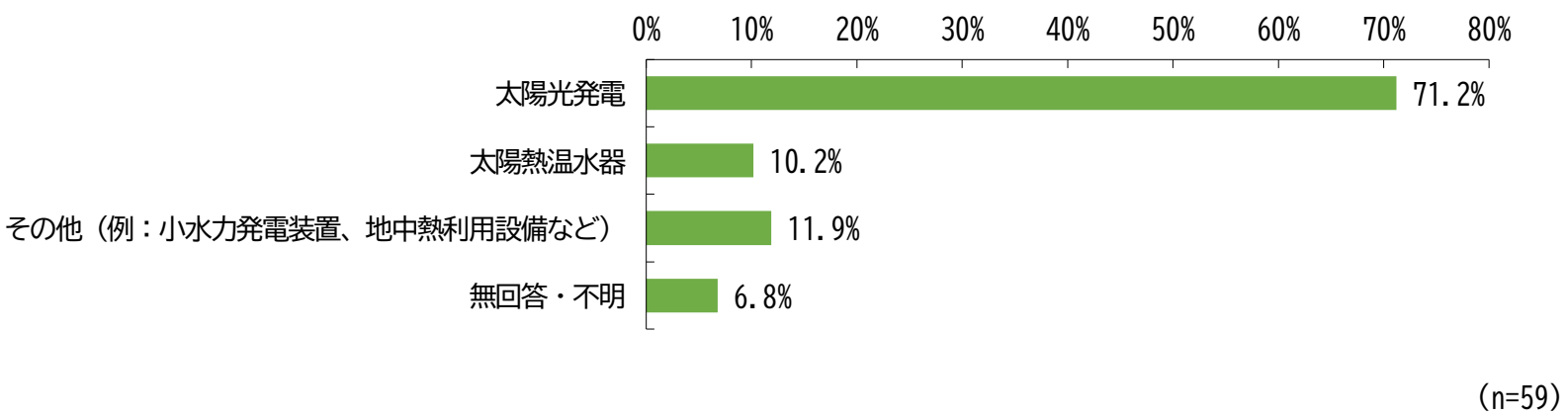
選択肢	回答数（人）
導入済	37
導入検討中（予定含む）	21
興味はあるが導入できない	202
導入の予定はない	204
無回答・不明	9
合計	473



再生可能エネルギーを利用した機器、製品の導入状況については「導入の予定はない」が43.1%、ほぼ同割合で「興味はあるが、導入できない」が42.7%であった。「導入済」「導入検討中（予定含む）」は約10%以下にとどまっている。

問13. 問12にて、【導入済】または【導入検討中（予定含む）】を選んだ方にお尋ねします。どのような機器、製品を導入（または導入を検討）していますか。あてはまるものすべてを選んでください。

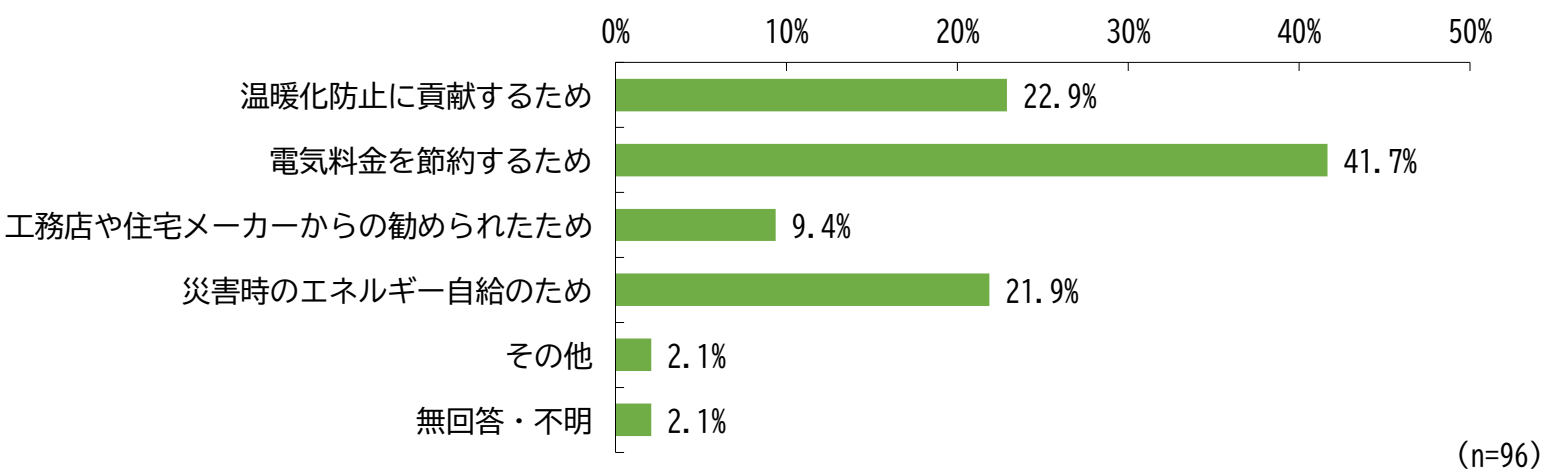
選択肢	回答数（人）
太陽光発電	42
太陽熱温水器	6
その他（例：小水力発電装置、地中熱利用設備など）	7
無回答・不明	4
合計	59



再生可能エネルギーを利用した機器、製品において、最も導入されているものは「太陽光発電」で71.2%であった。「太陽熱温水器」「その他（例：小水力発電装置、地中熱利用設備など）」については10%前後の導入率である。

問14. 問12にて、【導入済】または【導入検討中（予定含む）】を選んだ方にお尋ねします。導入した、または導入検討している理由について、あてはまるものすべてを選んでください。

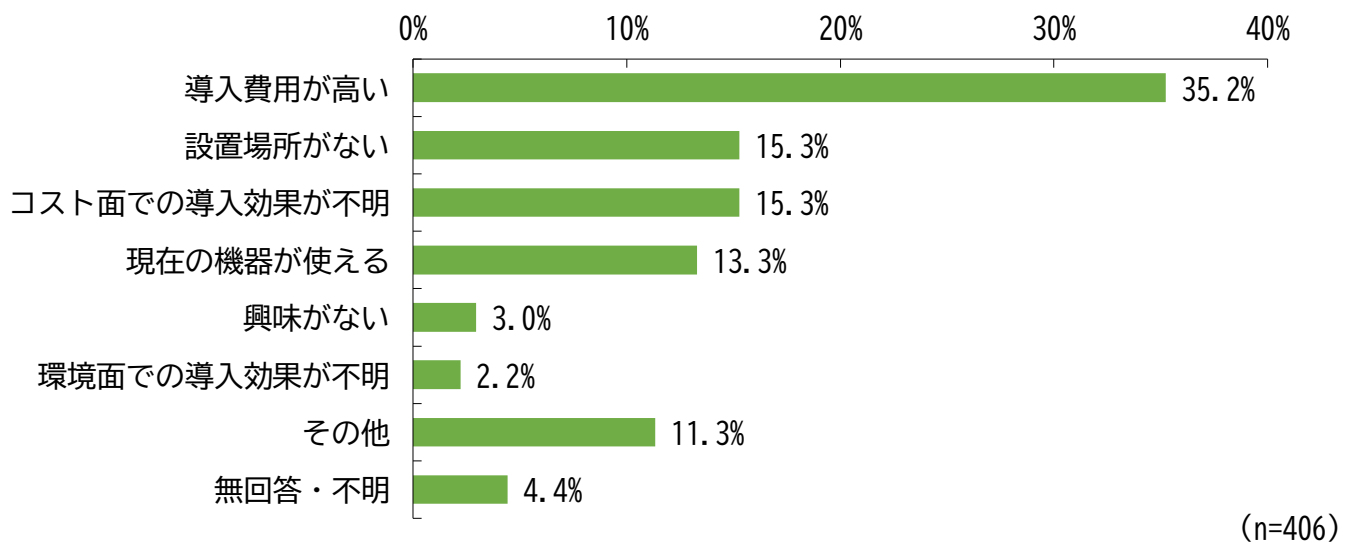
選択肢	回答数（人）
温暖化防止に貢献するため	22
電気料金を節約するため	40
工務店や住宅メーカーから勧められたため	9
災害時のエネルギー自給のため	21
その他	2
無回答・不明	2
合計	96



再生可能エネルギーを利用した機器、製品を「導入している」または「導入検討中（予定含む）」である理由としては、「電気料金を節約するため」が最も多く41.7%であった。次いで「温暖化防止に貢献するため」が22.9%、「災害時のエネルギー自給のため」が21.9%となっている。

問15. 問12にて、【興味はあるが、導入できない】または【導入の予定はない】を選んだ方にお尋ねします。その最大の理由は何ですか。1つ選んでください。

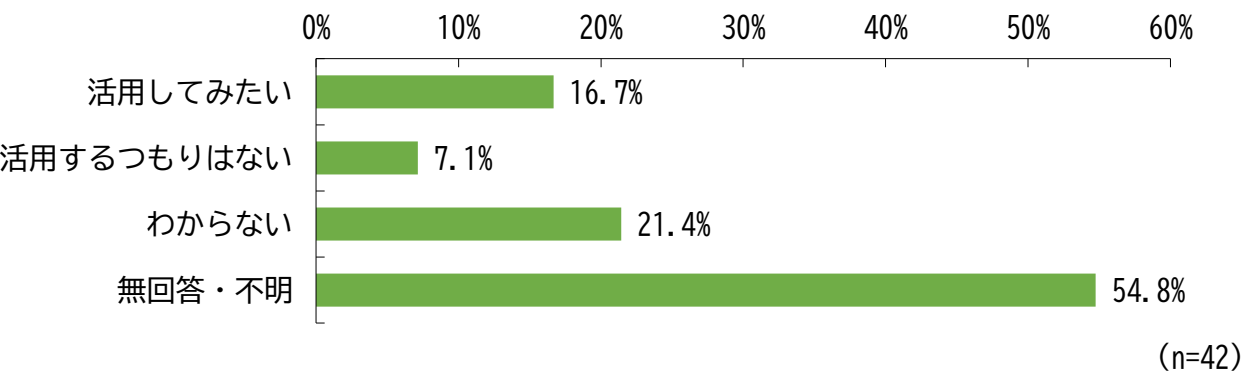
選択肢	回答数（人）
導入費用が高い	143
設置場所がない	62
コスト面での導入効果が不明	62
現在の機器が使える	54
興味がない	12
環境面での導入効果が不明	9
その他	46
無回答・不明	18
合計	406



再生可能エネルギーを利用した機器、製品について「興味はあるが、導入できない」または「導入の予定はない」理由としては、「導入費用が高い」が最も多く35.2%であった。次いで「設置場所がない」と「コスト面での導入効果が不明」がいずれも15.3%となっている。

問16. 問13にて「太陽光発電」について「導入検討中」を選んだ方にお尋ねします。導入するにあたりPPAモデルを活用したいと思いますか。1つ選んでください。

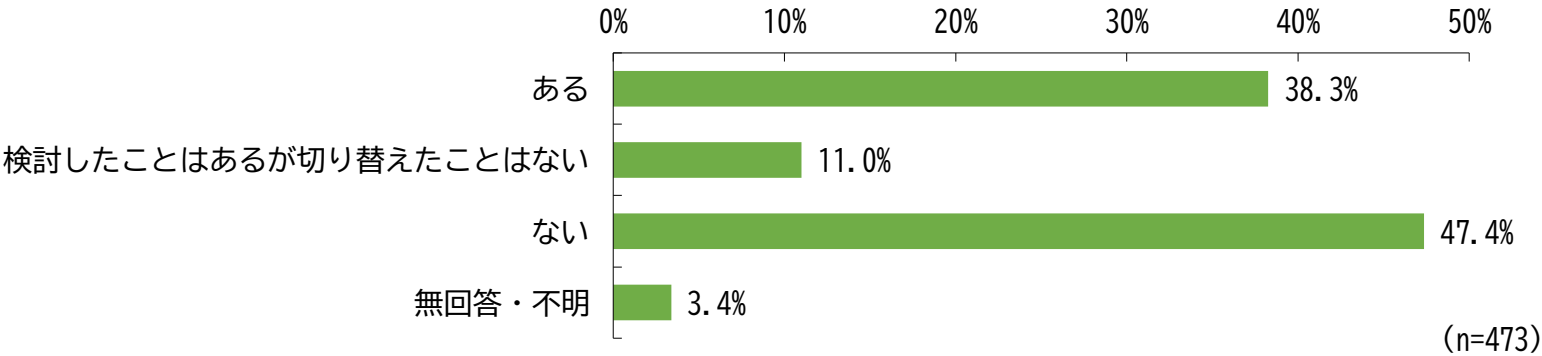
選択肢	回答数（人）
活用してみたい	7
活用するつもりはない	3
わからない	9
無回答・不明	23
合計	42



太陽光発電の導入における「PPAモデル」の活用については、「わからない」が最も多く21.4%であった。次いで「活用してみたい」が16.7%、「活用するつもりはない」が7.1%となっている。

問17. あなたは、これまで電気の契約先（電力会社）を切り替えたことがありますか。1つ選んでください。

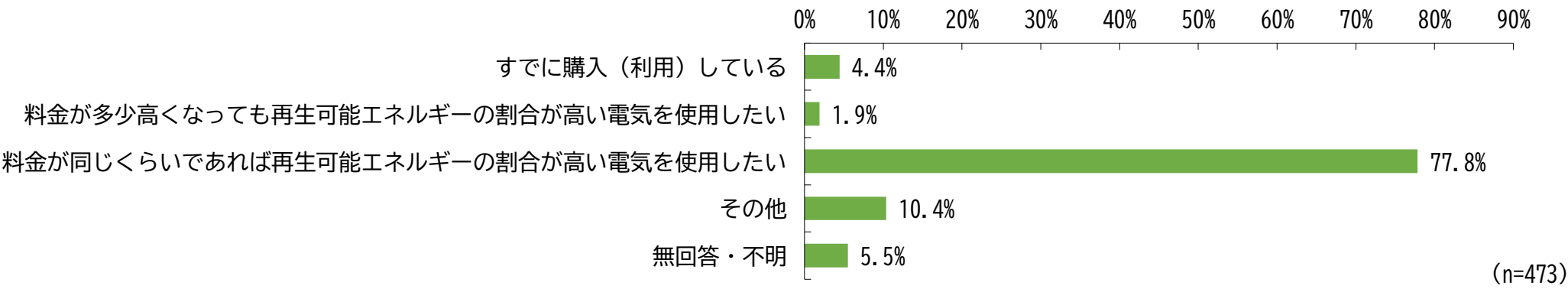
選択肢	回答数（人）
ある	181
検討したことはあるが切り替えたことはない	52
ない	224
無回答・不明	16
合計	473



電気の契約先（電力会社）の切り替え有無については「ない」が最も多く47.4%、次いで「ある」が38.3%、「検討したことはあるが切り替えたことはない」が11.0%であった。

問18. あなたは、家庭で使用する電気について、再生可能エネルギーによって作られた電気を利用したいと思いますか。1つ選んでください。

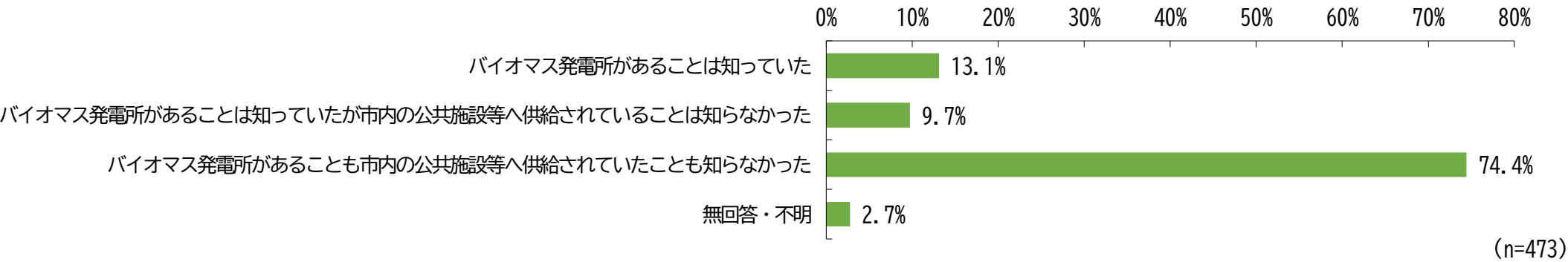
選択肢	回答数（人）
すでに購入（利用）している	21
料金が多少高くなっても再生可能エネルギーの割合が高い電気を使用したい	9
料金が同じくらいであれば再生可能エネルギーの割合が高い電気を使用したい	368
その他	49
無回答・不明	26
合計	473



再生可能エネルギーによって作られた電気の家庭利用については「料金が同じくらいであれば再生可能エネルギーの割合が高い電気を使用したい」が最も多く77.8%であった。一方で「料金が多少高くなっても再生可能エネルギーの割合が高い電気を使用したい」との回答は1.9%にとどまっている。

問19. あなたは、市内に木質バイオマス発電所があり、そこで発電した電力を市内の公共施設等へ供給していることをご存知でしたか。1つ選んでください。

選択肢	回答数（人）
バイオマス発電所があることは知っていた	62
バイオマス発電所があることは知っていたが市内の公共施設等へ供給されていることは知らなかった	46
バイオマス発電所があることも市内の公共施設等へ供給されていたことも知らなかった	352
無回答・不明	13
合計	473

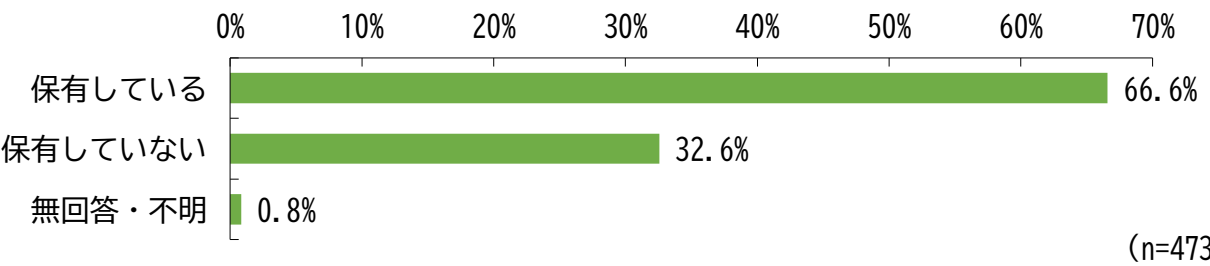


市内の木質バイオマス発電所については「バイオマス発電所があることも市内の公共施設等へ供給されていたことも知らなかった」が最も多く74.4%であった。一方、バイオマス発電所があることを知っていたのは全体の約20%程度であり、今後の市民へ認知拡大が課題である。

5.自動車・交通について

問20. あなたのご家庭では自動車を保有していますか。1つ選んでください。

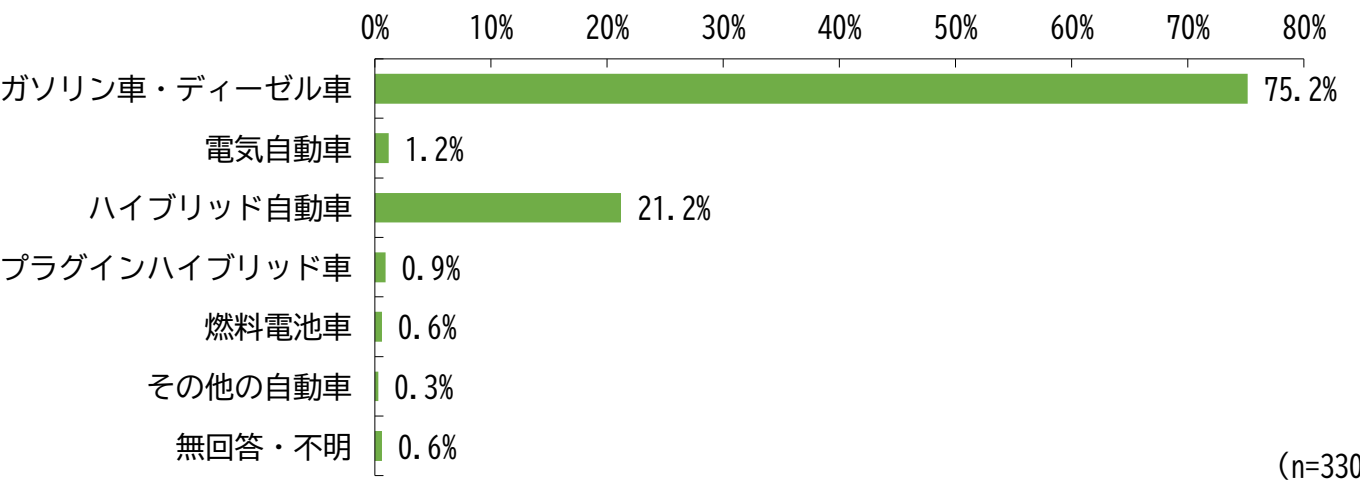
選択肢	回答数（人）
保有している	315
保有していない	154
無回答・不明	4
合計	473



家庭での自動車保有については「保有している」が66.6%で、「保有していない」が32.6%であった。

問21. 問20にて、【保有している】を選んだ方にお尋ねします。保有している自動車の種類について、あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）

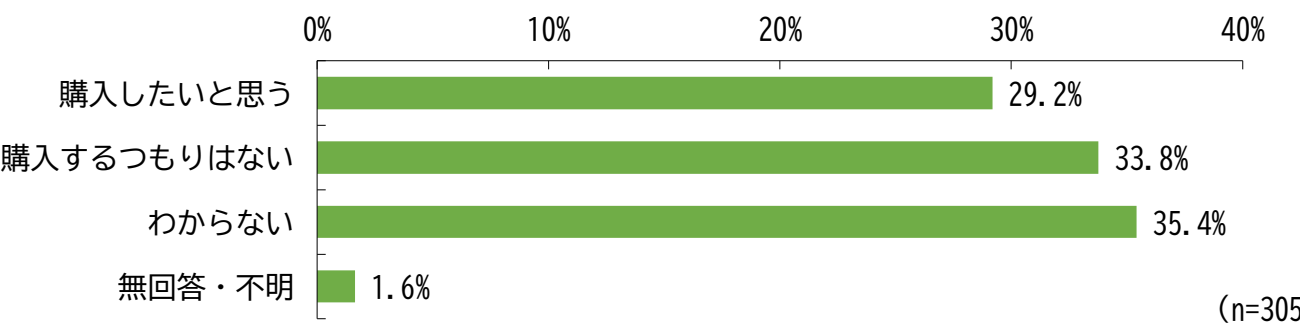
選択肢	回答数（人）
ガソリン車・ディーゼル車	248
電気自動車	4
ハイブリッド自動車	70
プラグインハイブリッド車	3
燃料電池車	2
その他の自動車	1
無回答・不明	2
合計	330



家庭における保有自動車の種類としては「ガソリン車・ディーゼル車」が最も多く75.2%、次いで「ハイブリッド自動車」が21.2%であった。

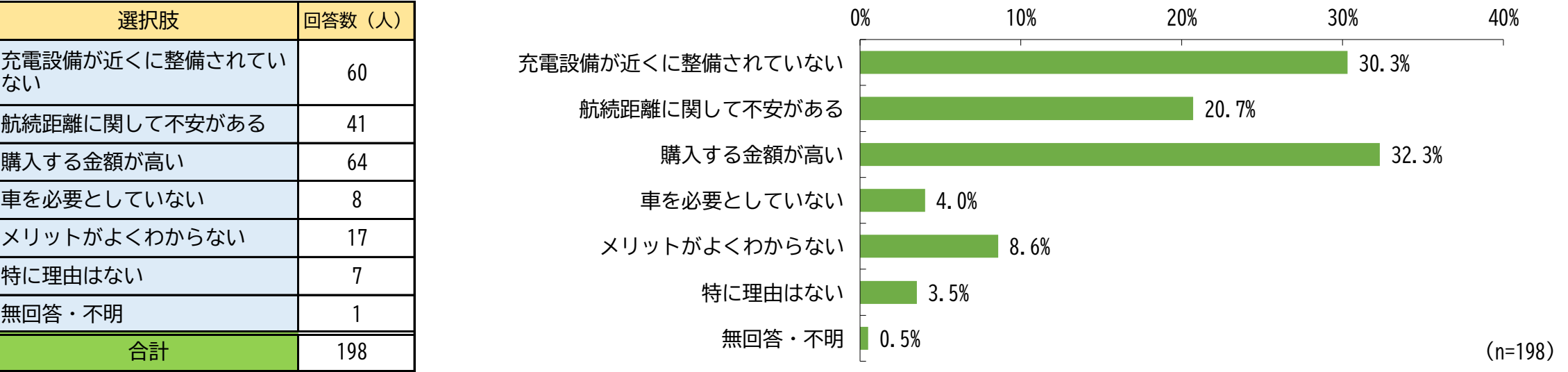
問22. 問21にて、【ガソリン車・ディーゼル車】または【ハイブリッド自動車】を選んだ方にお尋ねします。買い替えの際には、電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド自動車（PHV）、燃料電池自動車（FCV）といったゼロエミッション車（ZEV）を購入したいと思いますか。1つ選んでください。

選択肢	回答数（人）
購入したいと思う	89
購入するつもりはない	103
わからない	108
無回答・不明	5
合計	305



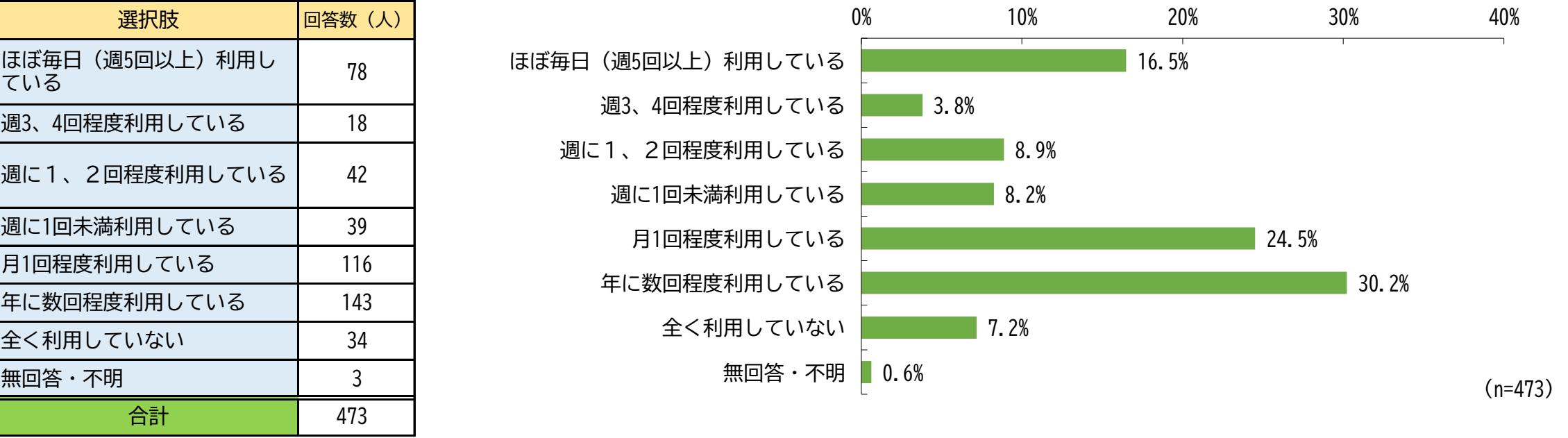
自動車買い替え時における「電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド自動車（PHV）、燃料電池自動車（FCV）といったゼロエミッション車（ZEV）」の購入意欲については「わからない」が最も多く35.4%、僅差で「購入するつもりはない」が33.8%、次いで「購入したいと思う」が29.2%となっている。

問23. 問22にて、【購入するつもりはない】を選んだ方にお尋ねします。購入しない理由について、あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）



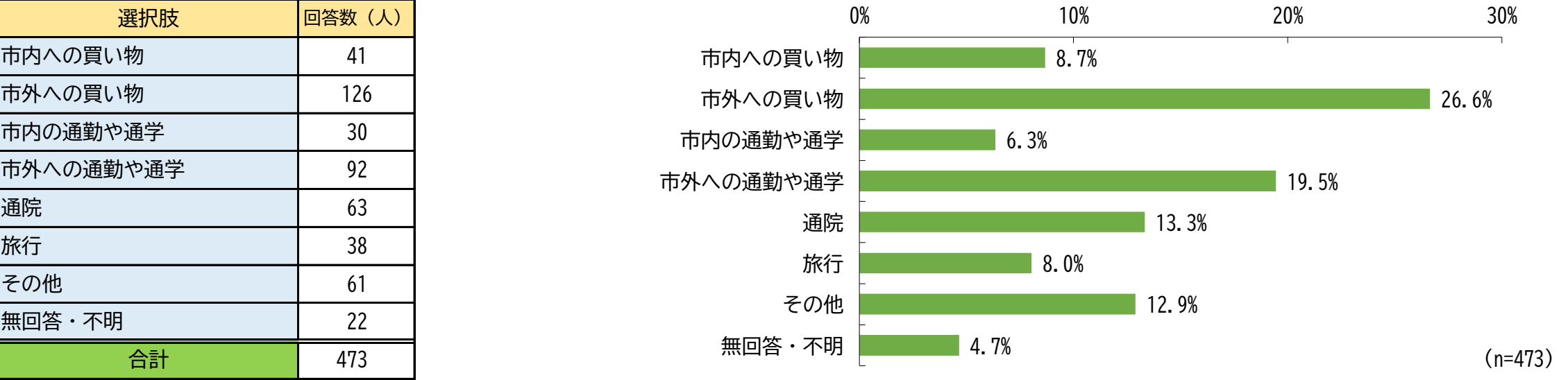
「電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド自動車（PHV）、燃料電池自動車（FCV）といったゼロエミッション車（ZEV）」を購入しない理由については「購入する金額が高い」「充電設備が近くに整備されていない」がいずれも30%前後と多く、次いで「航続距離に関して不安がある」が20.7%となっている。

問24. あなたは、公共交通機関（鉄道やバスなど）をどの程度利用していますか。1つ選んでください。



公共交通機関（鉄道やバスなど）の利用頻度については「年に数回程度利用している」が最も多く30.2%となっている。次いで「月1回程度利用している」が24.5%、「ほぼ毎日（週5回以上）利用している」は16.5%となっている。

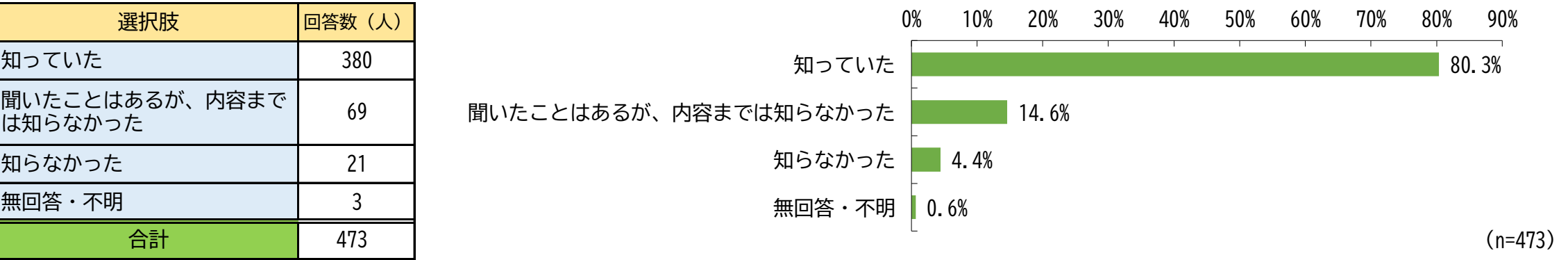
問25. あなたは、公共交通機関（鉄道やバスなど）をどのような目的で利用していますか。最も多いもの1つ選んでください。



公共交通機関（鉄道やバスなど）の利用目的については「市外への買い物」が最も多く26.6%、次いで「市外への通勤や通学」が19.5%と、市外へ移動の際の利用が目立っている。

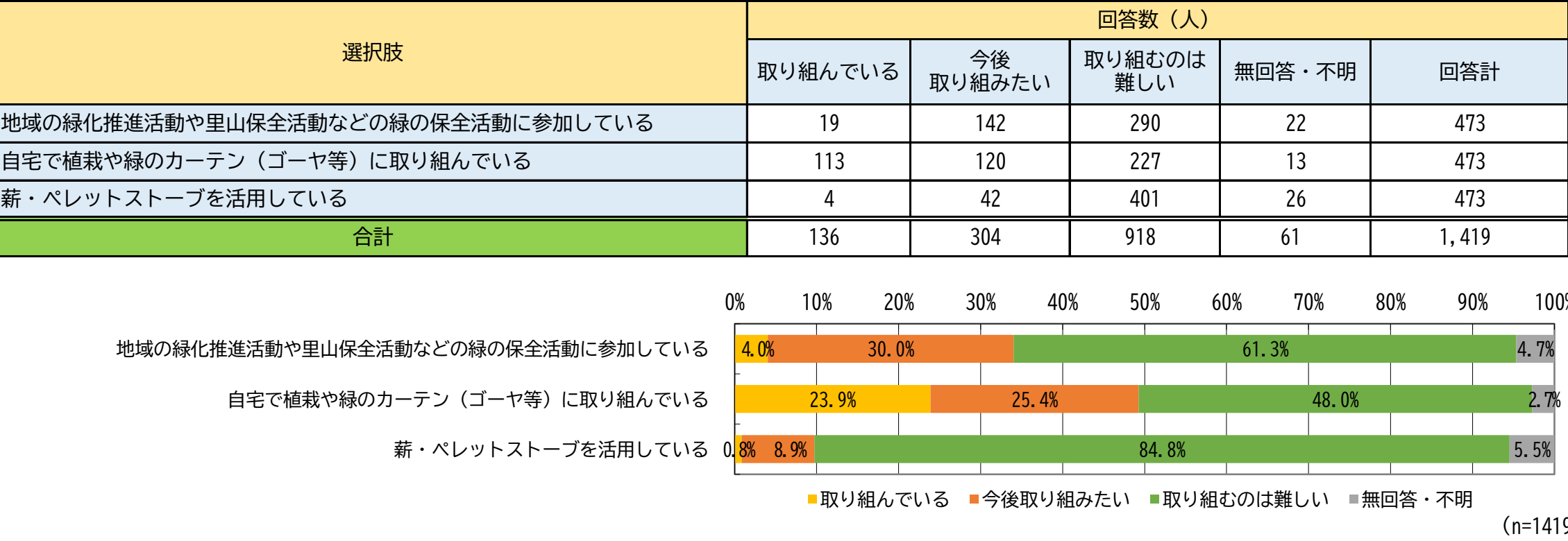
6.森林資源の利用促進について

問26. 森林が地球温暖化防止の役割を果たしていることをご存知ですか。森林は大気中の二酸化炭素を吸収することで、地球温暖化の原因である温室効果ガス排出抑制の働きを担っています。あなたは、このことをご存知ですか。1つ選んでください。



森林の地球温暖化防止の役割認知については「知っていた」が最も多く80.3%であり、多くの市民に認知されている状況である。

問27. 二酸化炭素を吸収する取組に関して、あなたの現在の取組状況について、項目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

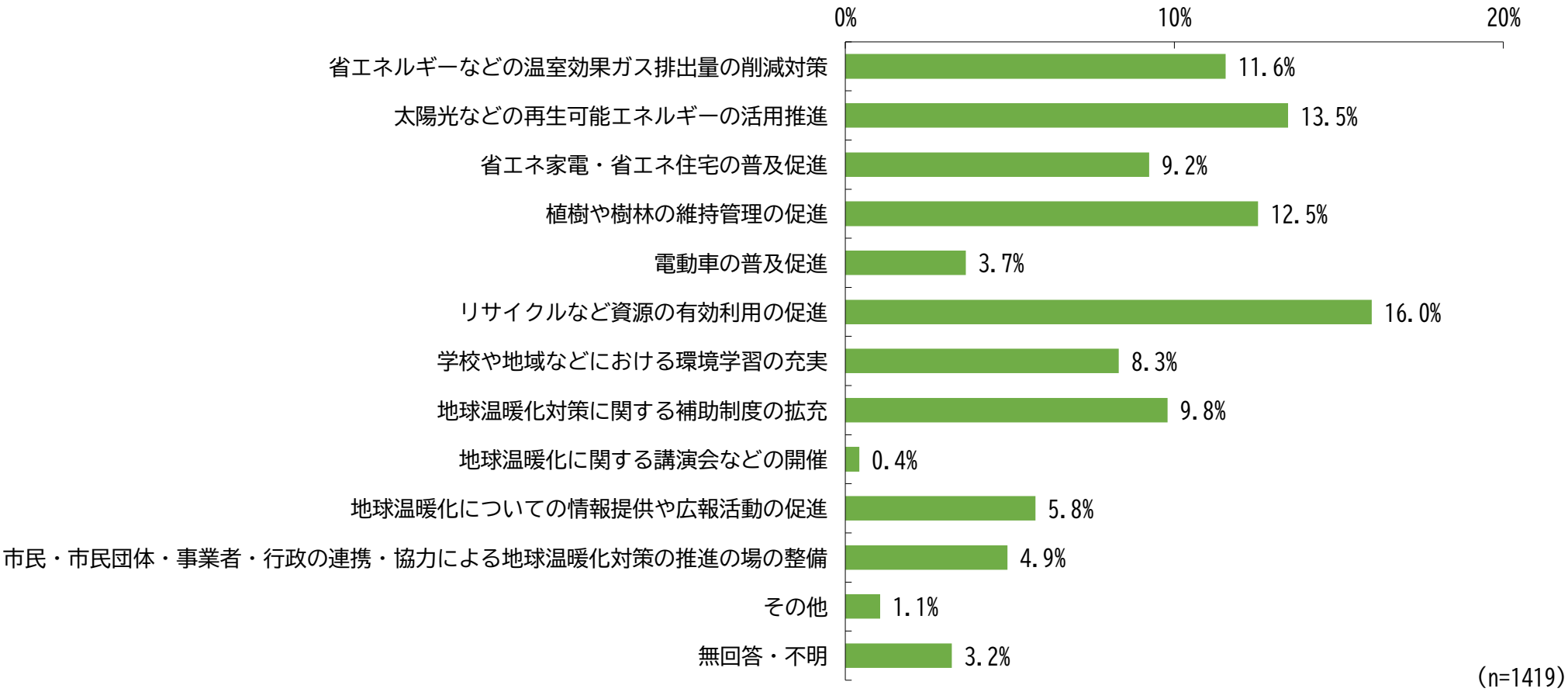


二酸化炭素を吸収するための現在の取組としては、いずれの項目も「取り組むのは難しい」が最も多い状況となっており、今後はより取り組みやすい内容の提案などが課題である。

7.大東市の将来について

問28. 大東市の地球温暖化対策として、市（行政）が重点的に取り組むべき取組は、どれだと思いますか。3つ選んでください。（複数回答可）

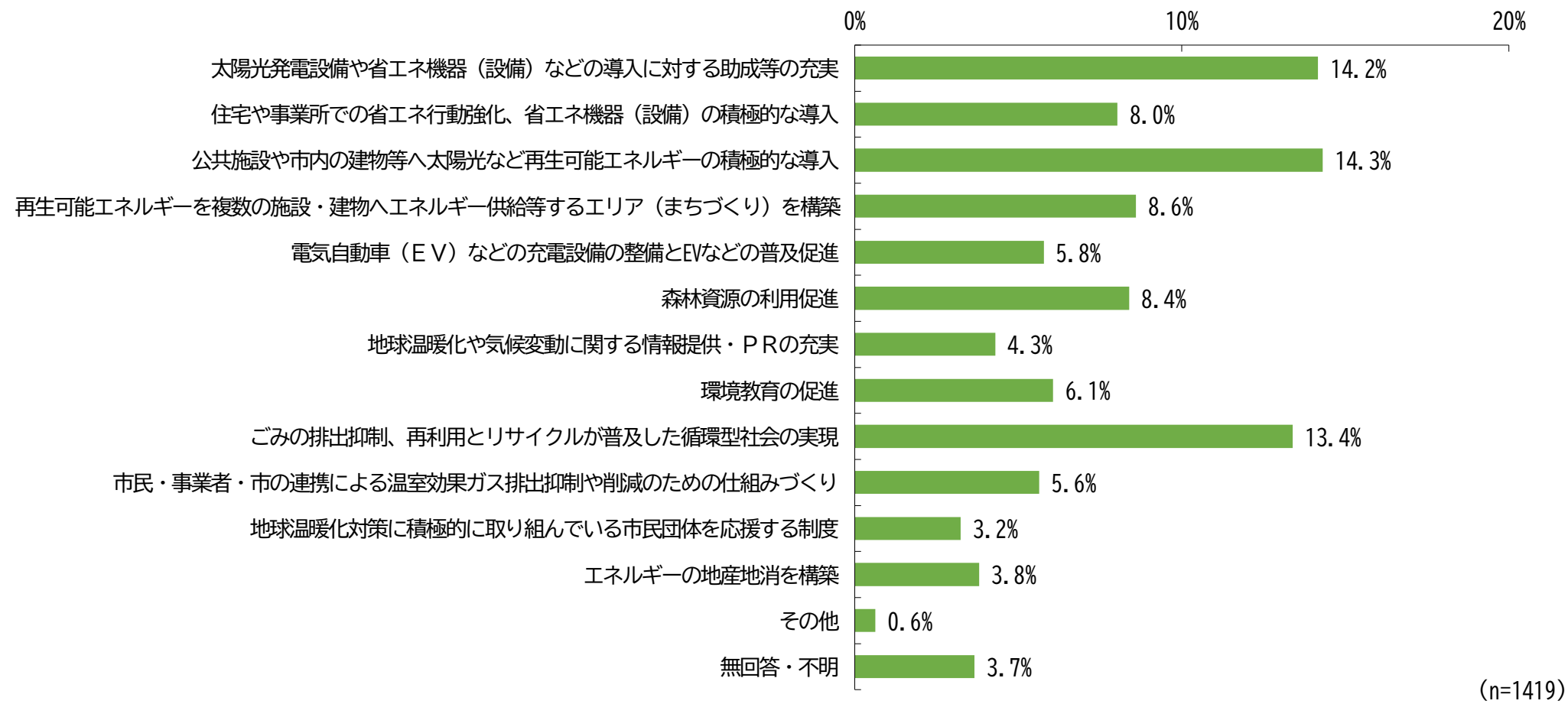
選択肢	回答数（人）
省エネルギーなどの温室効果ガス排出量の削減対策	164
太陽光などの再生可能エネルギーの活用推進	191
省エネ家電・省エネ住宅の普及促進	131
植樹や樹林の維持管理の促進	178
電動車の普及促進	52
リサイクルなど資源の有効利用の促進	227
学校や地域などにおける環境学習の充実	118
地球温暖化対策に関する補助制度の拡充	139
地球温暖化に関する講演会などの開催	6
地球温暖化についての情報提供や広報活動の促進	82
市民・市民団体・事業者・行政の連携・協力による地球温暖化対策の推進の場の整備	70
その他	15
無回答・不明	46
合計	1,419



大東市の地球温暖化対策として市（行政）が重点的に取り組むべき内容は「リサイクルなど資源の有効利用の促進」が最も多い16.0%、次いで「太陽光などの再生可能エネルギーの活用推進」が13.5%、「植樹や樹林の維持管理の促進」が12.5%となっている。

問29. 大東市全体として、地球温暖化対策のために2030年頃までに重視すべき方向性は何だと思いますか。3つ選んでください。（複数回答可）

選択肢	回答数（人）
太陽光発電設備や省エネ機器（設備）などの導入に対する助成等の充実	201
住宅や事業所での省エネ行動強化、省エネ機器（設備）の積極的な導入	114
公共施設や市内の建物等へ太陽光など再生可能エネルギーの積極的な導入	203
再生可能エネルギーを複数の施設・建物へエネルギー供給等するエリア（まちづくり）を構築	122
電気自動車（ＥＶ）などの充電設備の整備とEVなどの普及促進	82
森林資源の利用促進	119
地球温暖化や気候変動に関する情報提供・ＰＲの充実	61
環境教育の促進	86
ごみの排出抑制、再利用とリサイクルが普及した循環型社会の実現	190
市民・事業者・市の連携による温室効果ガス排出抑制や削減のための仕組みづくり	80
地球温暖化対策に積極的に取り組んでいる市民団体を応援する制度	46
エネルギーの地産地消を構築	54
その他	9
無回答・不明	52
合計	1,419



大東市全体として、地球温暖化対策のために2030年頃までに重視すべき方向性としては「公共施設や市内の建物等へ太陽光など再生可能エネルギーの積極的な導入」と「太陽光発電設備や省エネ機器（設備）などの導入に対する助成等の充実」がいずれも約14%と多く、太陽光への注目が集まっている。また「ごみの排出抑制、再利用とリサイクルが普及した循環型社会の実現」も13.4%となっており、こちらも期待をされている状況である。

問30. 最後にご意見やご要望、ご提案がありましたらご記入ください。

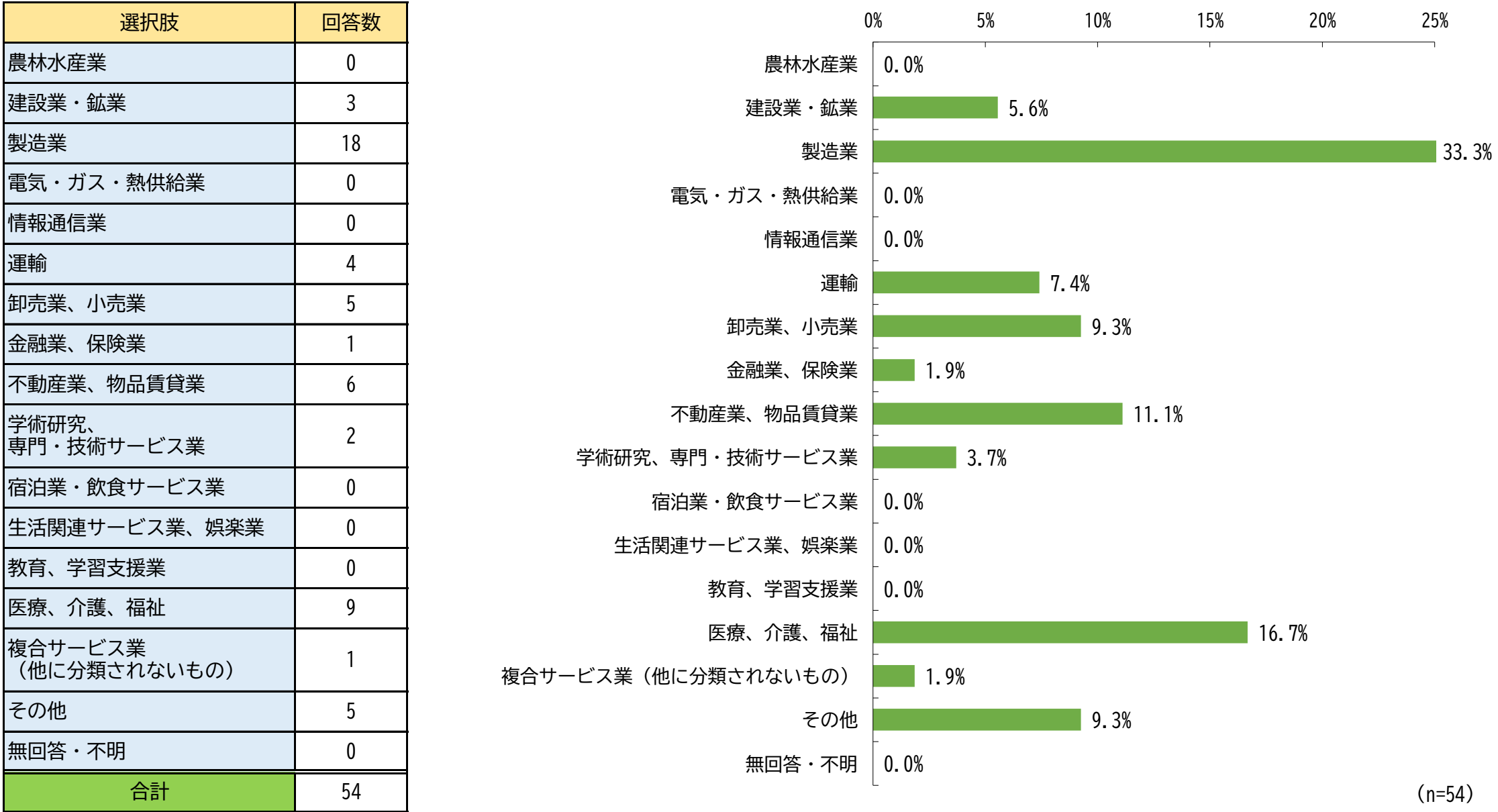
別紙参照。

再生可能エネルギーの取組に関するアンケート結果【事業者】

【対象】大東市内に事業所を有する 200社（無作為抽出）
【調査方法】郵送方式（料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送）またはWEB回答
【調査期間】2023年8月2日（水）～8月25日（火）
【回収状況】配布：200 有効回収票：54通（紙：46通、WEB：8通）⇒ 有効回収率：27.0 %

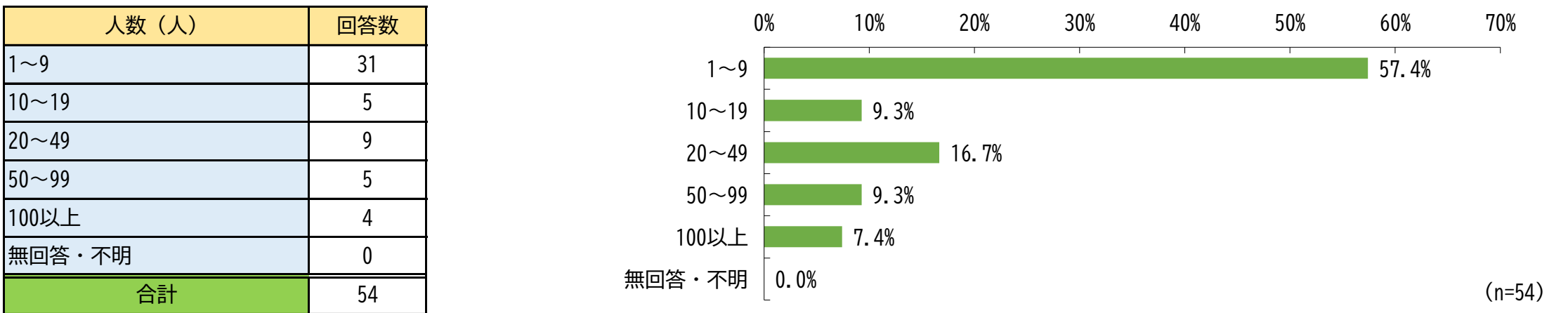
1.事業所について

問1. 貴事業所の業種について、あてはまるものを1つ選んでください。



事業所の業種は「製造業」が最も多く33.3%、次いで「医療、介護、福祉」が16.7%、「不動産業、物品賃貸業」が11.1%となっている。

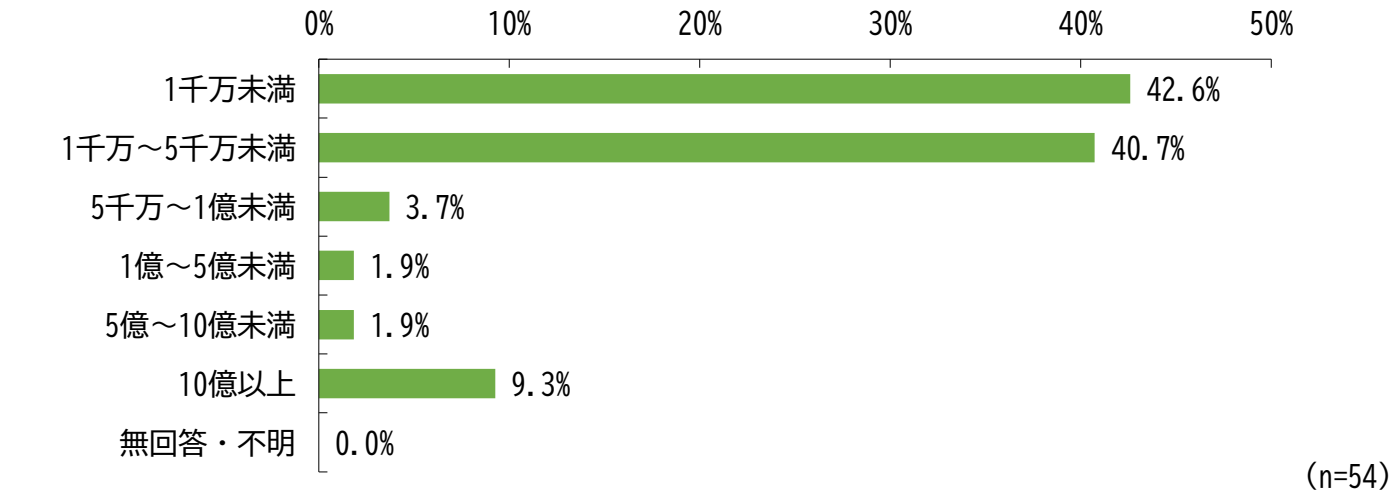
問2. 貴事業所にお勤めの従業員数（ご回答頂いている事業所で、パート・アルバイトを含めてお答えください）について、あてはまるものを1つ選んでください。



事業所の従業員数は「1～9人」が最も多く57.4%で、次いで「20～49人」が16.7%となっている。

問3. 貴事業所の資本について、あてはまるものを1つ選んでください。

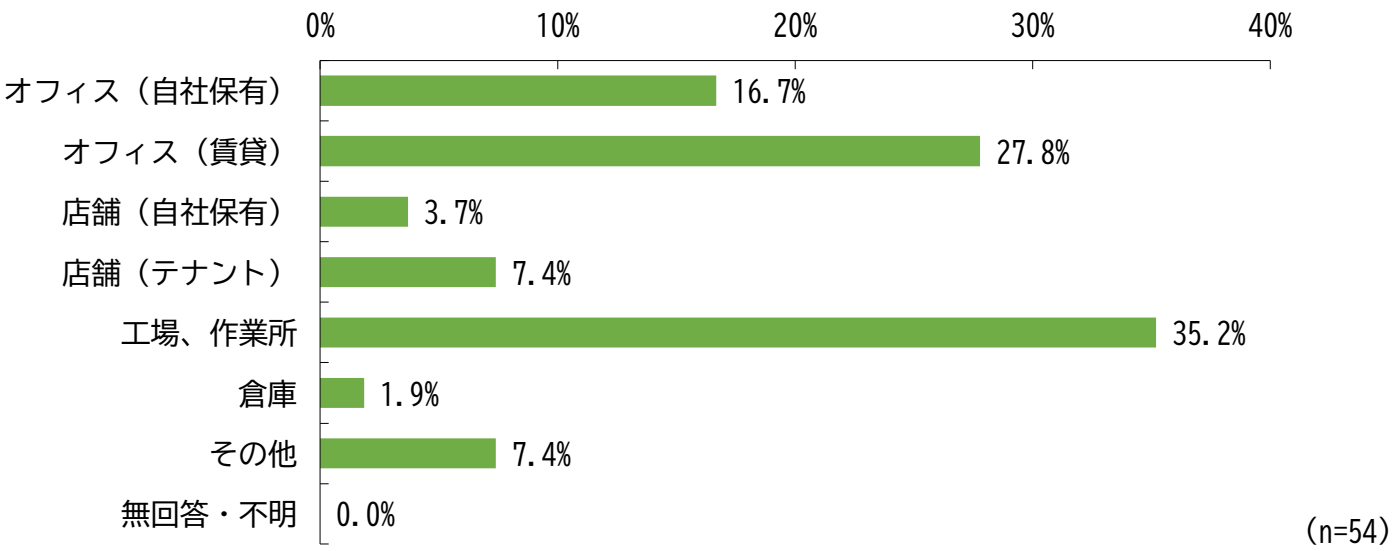
金額（円）	回答数
1千万未満	23
1千万～5千万未満	22
5千万～1億未満	2
1億～5億未満	1
5億～10億未満	1
10億以上	5
無回答・不明	0
合計	54



事業所の資本規模は「1千万未満」が42.6%、「1千万～5千万未満」が40.7%となっている。

問4. 貴事業所の形態について、あてはまるものを1つ選んでください。

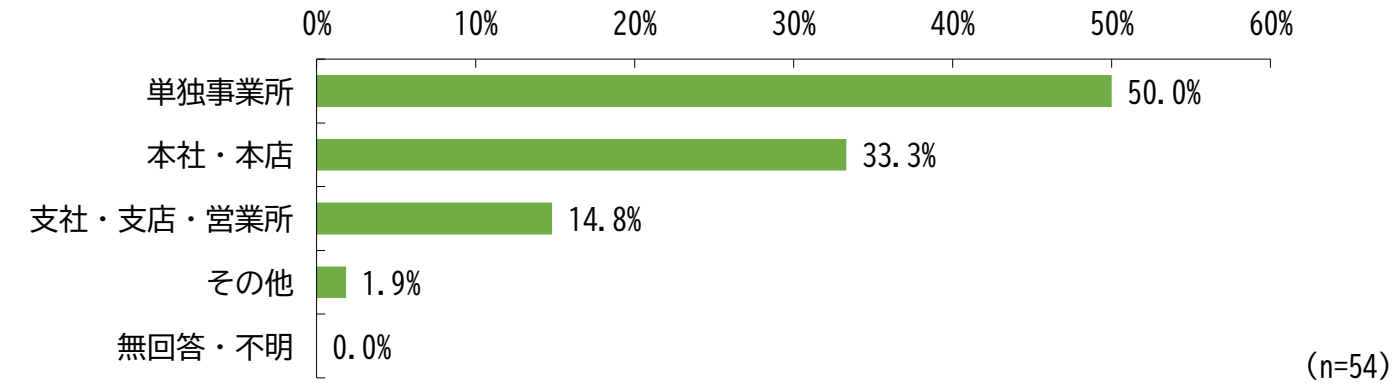
選択肢	回答数
オフィス（自社保有）	9
オフィス（賃貸）	15
店舗（自社保有）	2
店舗（テナント）	4
工場、作業所	19
倉庫	1
その他	4
無回答・不明	0
合計	54



事業所の形態は「工場、作業所」が最も多く35.2%で、次いで「オフィス（賃貸）」が27.8%となっている。

問5. 貴事業所の機能について、あてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数
単独事業所	27
本社・本店	18
支社・支店・営業所	8
その他	1
無回答・不明	0
合計	54

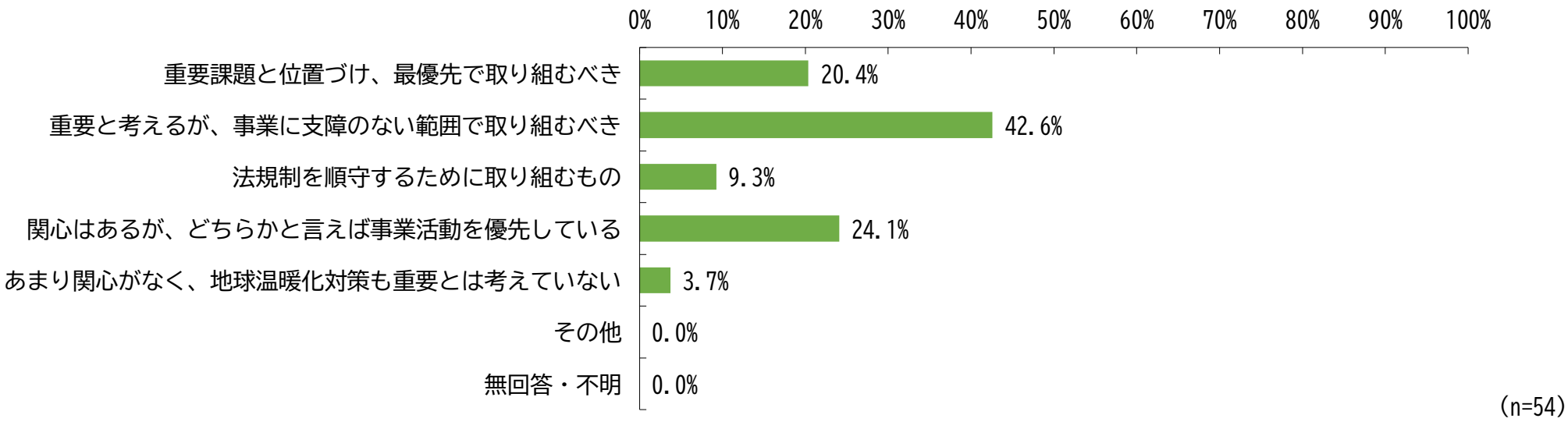


事業所の機能については「単独事業所」が最も多く50.0%で全体の半数を占めている。次いで「本社・本店」が33.3%となっている。

2.貴事業所における地球温暖化対策に関する考えについて

問6. 貴事業所では、地球温暖化対策の取組みをどのように位置づけていますか。1つ選んでください。

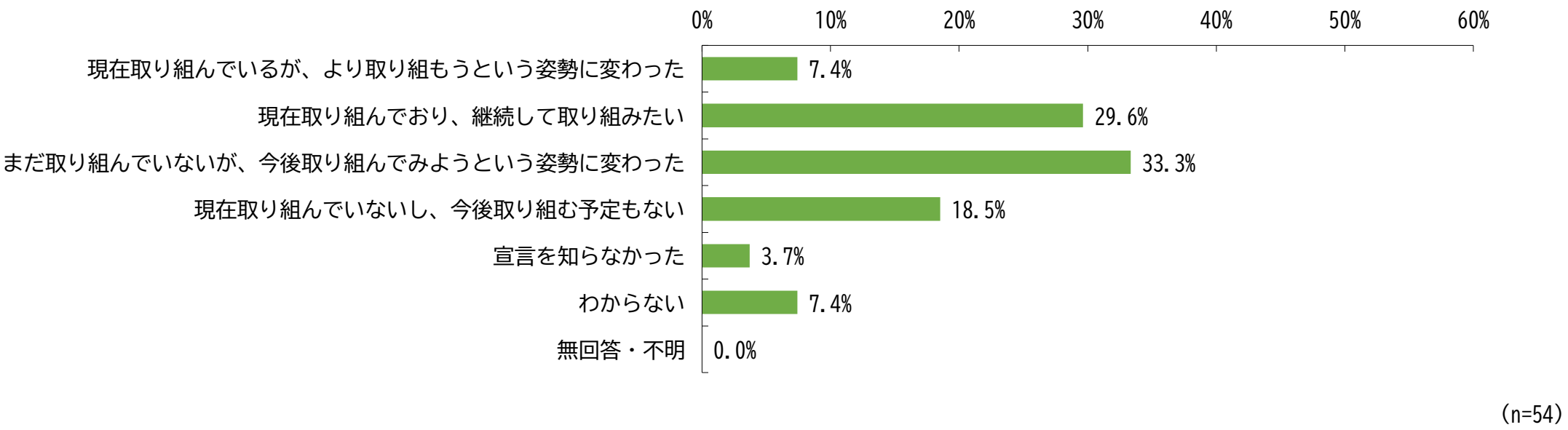
選択肢	回答数
重要課題と位置づけ、最優先で取り組むべき	11
重要と考えるが、事業に支障のない範囲で取り組むべき	23
法規制を順守するために取り組むもの	5
関心はあるが、どちらかと言えば事業活動を優先している	13
あまり関心がなく、地球温暖化対策も重要とは考えていない	2
その他	0
無回答・不明	0
合計	54



地球温暖化対策の取組みの位置づけについては「重要と考えるが、事業に支障のない範囲で取り組むべき」が最も多く42.6%となっている。次いで「関心はあるが、どちらかと言えば事業活動を優先している」が24.1%、「重要課題と位置づけ、最優先で取り組むべき」は20.4%となっている。

問7. 国は、「2050年までに二酸化炭素を含む温室効果ガスの実質的な排出ゼロを目指す」と宣言しました。この宣言により、貴事業所において地球温暖化対策への取組姿勢はどのように変わりましたか。貴事業所の考えに近いものを1つ選んでください。

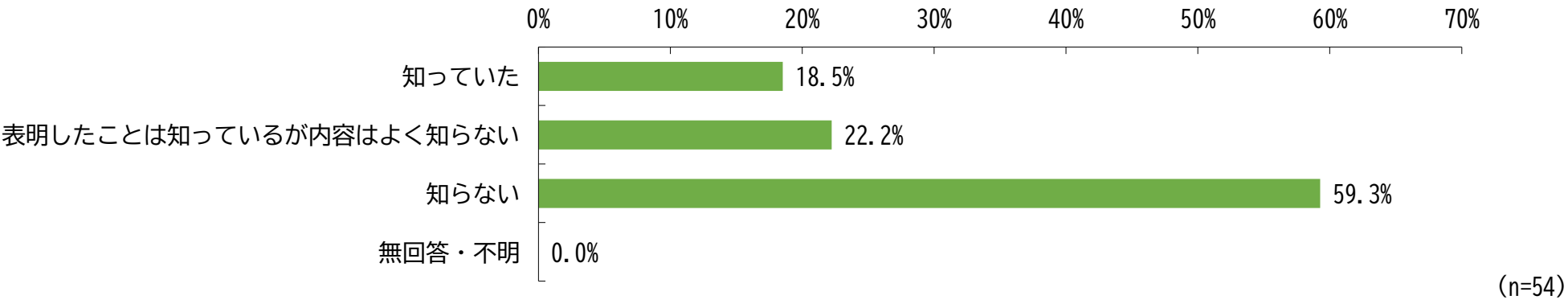
選択肢	回答数
現在取り組んでいるが、より取り組もうという姿勢に変わった	4
現在取り組んでおり、継続して取り組みたい	16
まだ取り組んでいないが、今後取り組んでみようという姿勢に変わった	18
現在取り組んでいないし、今後取り組む予定もない	10
宣言を知らなかった	2
わからない	4
無回答・不明	0
合計	54



国の温室効果ガス排出ゼロ宣言を受けての取組姿勢の変化については「まだ取り組んでいないが、今後取り組んでみようという姿勢に変わった」「現在取り組んでおり、継続して取り組みたい」がいずれも約30%であるのに対し、「現在取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」が18.5%となっている。

問8. 大東市は、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の実現を目指し2023年2月に「ゼロカーボンシティ」を表明しました。貴事業所は、大東市が2050年を目途に「カーボンニュートラル」を目指すことをご存知でしたか。1つ選んでください。

選択肢	回答数
知っていた	10
表明したことは知っているが内容はよく知らない	12
知らない	32
無回答・不明	0
合計	54

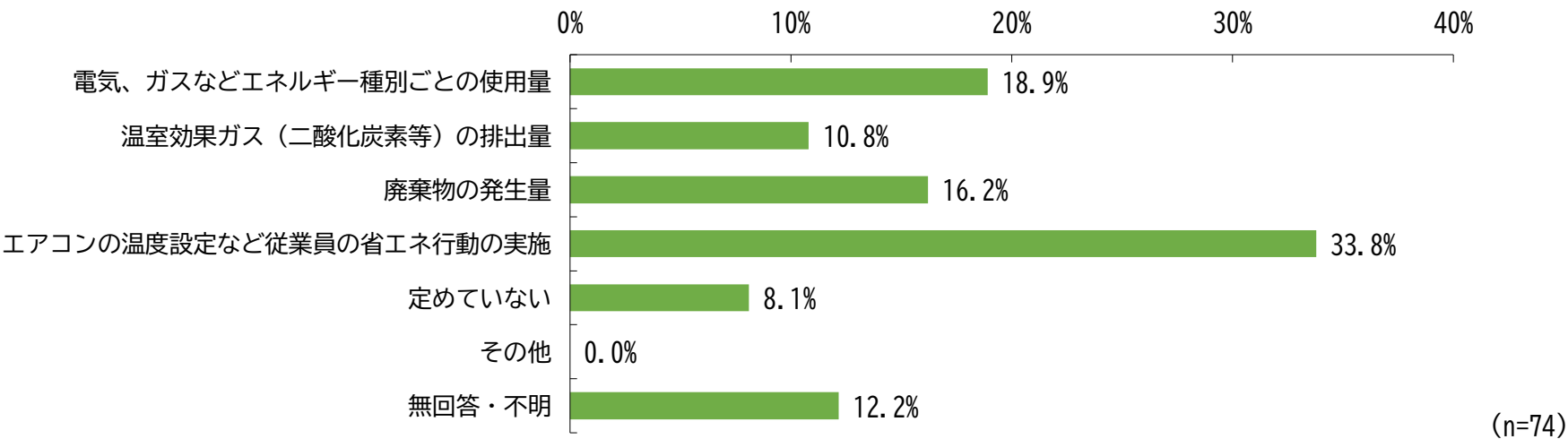


大東市の「ゼロカーボンシティ」表明の認知については「知らない」が最も多く59.3%となっている。次いで「表明したことは知っているが内容はよく知らない」が22.2%、「知っていた」が18.5%となっている。

3. 貴事業所における地球温暖化対策の取組状況について

問9. 貴事業所では、エネルギーや温室効果ガス、廃棄物の削減などについて、目標を定めていますか。あてはまるものすべて選んでください。また、あてはまる場合その具体的な内容をご記入下さい。

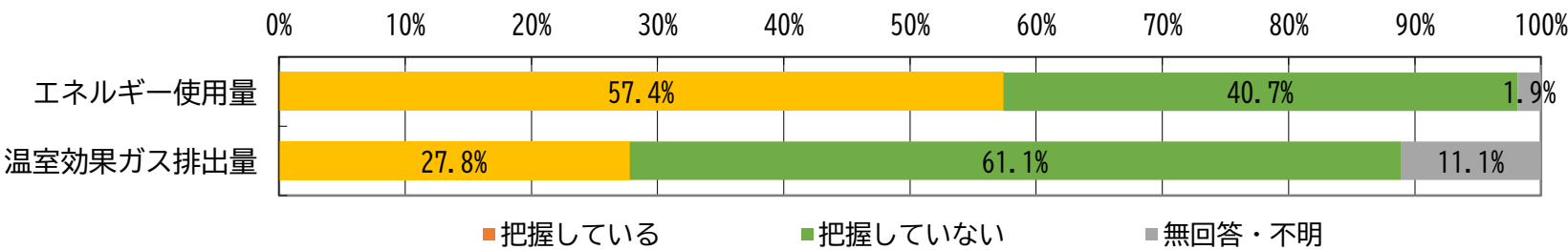
選択肢	回答数
電気、ガスなどエネルギー種別ごとの使用量	14
温室効果ガス（二酸化炭素等）の排出量	8
廃棄物の発生量	12
エアコンの温度設定など従業員の省エネ行動の実施	25
定めていない	6
その他	0
無回答・不明	9
合計	74



エネルギーや温室効果ガス、廃棄物の削減などにおける目標設定については「エアコンの温度設定など従業員の省エネ行動の実施」が最も多く33.8%、次いで「電気、ガスなどエネルギー種別ごとの使用量」が18.9%、「廃棄物の発生量」が16.2%となっている。具体的な内容としては「エアコンの温度設定を夏は27～28℃、冬は20℃にする」というものが最も多く、「ごみの分別」「無駄な電気の使用を控える」といった回答も多く見られた。

問10. 貴事業所での、エネルギー使用量や温室効果ガス排出量についてお尋ねします。下表の項目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

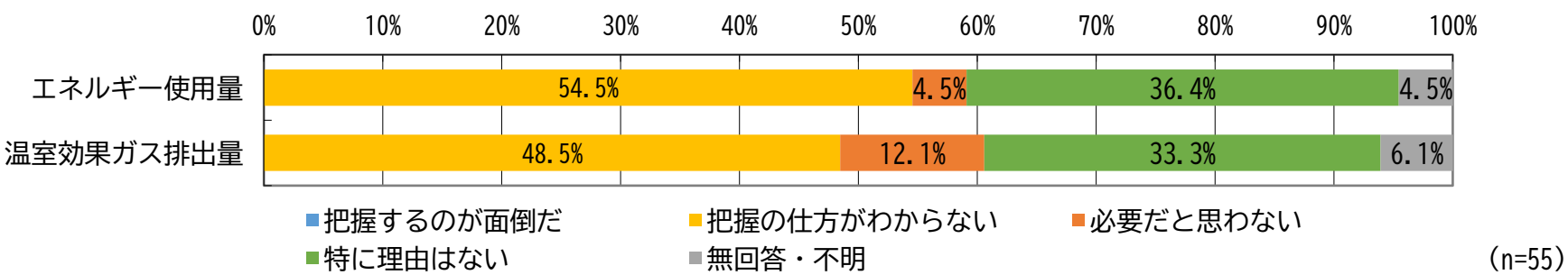
選択肢	回答数			
	把握している	把握していない	無回答・不明	回答計
エネルギー使用量	31	22	1	54
温室効果ガス排出量	15	33	6	54
合計	46	55	7	108



エネルギー使用量や温室効果ガス排出量の把握状況については、「エネルギー使用量」は57.4%の事業所が把握しているのに対し、「温室効果ガス排出量」は27.8%の事業所でしか把握されていない状況である。

【把握していない】と回答した方は、その理由を選んでください。

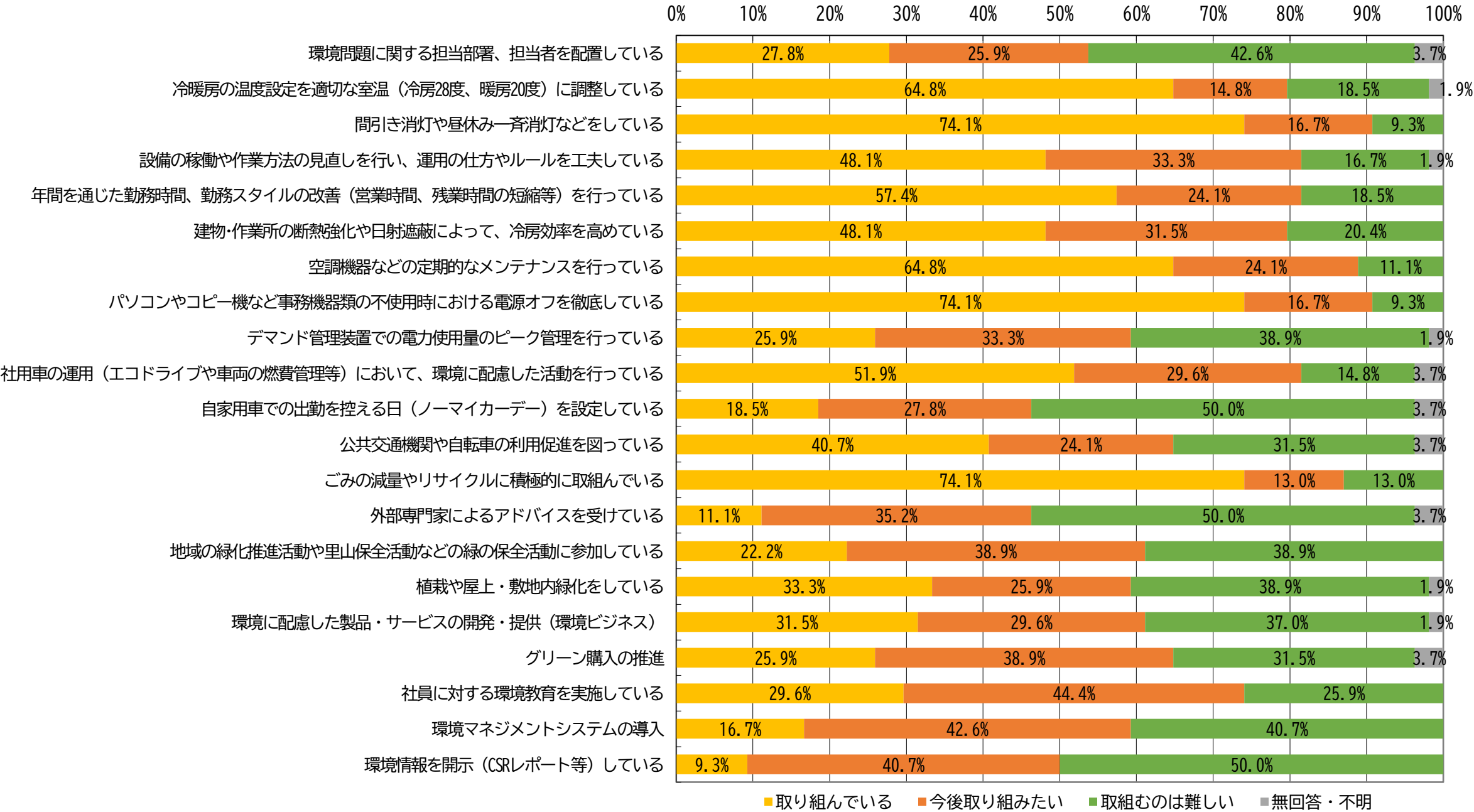
把握していない 主な理由	回答数					
	把握するのが面倒だ	把握の仕方がわからない	必要だと思わない	特に理由はない	無回答・不明	回答計
エネルギー使用量	0	12	1	8	1	22
温室効果ガス排出量	0	16	4	11	2	33
合計	0	28	5	19	3	55



エネルギー使用量や温室効果ガス排出量を把握していない理由としては、いずれも「把握の仕方がわからない」が最も多く、約50%に及んでいる。

問11. 貴事業所における現在の地球温暖化防止対策への取組状況と取組意向についてお尋ねします。下表の項目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

選択肢	回答数				
	取り組んでいる	今後取り組みたい	取組むのは難しい	無回答・不明	回答計
環境問題に関する担当部署、担当者を配置している	15	14	23	2	54
冷暖房の温度設定を適切な室温（冷房28度、暖房20度）に調整している	35	8	10	1	54
間引き消灯や昼休み一斉消灯などを行っている	40	9	5	0	54
設備の稼働や作業方法の見直しを行い、運用の仕方やルールを工夫している	26	18	9	1	54
年間を通じた勤務時間、勤務スタイルの改善（営業時間、残業時間の短縮等）を行っている	31	13	10	0	54
建物・作業所の断熱強化や日射遮蔽によって、冷房効率を高めている	26	17	11	0	54
空調機器などの定期的なメンテナンスを行っている	35	13	6	0	54
パソコンやコピー機など事務機器類の不使用时における電源オフを徹底している	40	9	5	0	54
デマンド管理装置での電力使用量のピーク管理を行っている	14	18	21	1	54
社用車の運用（エコドライブや車両の燃費管理等）において、環境に配慮した活動を行っている	28	16	8	2	54
自家用車での出勤を控える日（ノーマイカーデー）を設定している	10	15	27	2	54
公共交通機関や自転車の利用促進を図っている	22	13	17	2	54
ごみの減量やリサイクルに積極的に取り組んでいる	40	7	7	0	54
外部専門家によるアドバイスを受けている	6	19	27	2	54
地域の緑化推進活動や里山保全活動などの緑の保全活動に参加している	12	21	21	0	54
植栽や屋上・敷地内緑化をしている	18	14	21	1	54
環境に配慮した製品・サービスの開発・提供（環境ビジネス）	17	16	20	1	54
グリーン購入の推進	14	21	17	2	54
社員に対する環境教育を実施している	16	24	14	0	54
環境マネジメントシステムの導入	9	23	22	0	54
環境情報を開示（CSRレポート等）している	5	22	27	0	54
合計	459	330	328	17	1,134

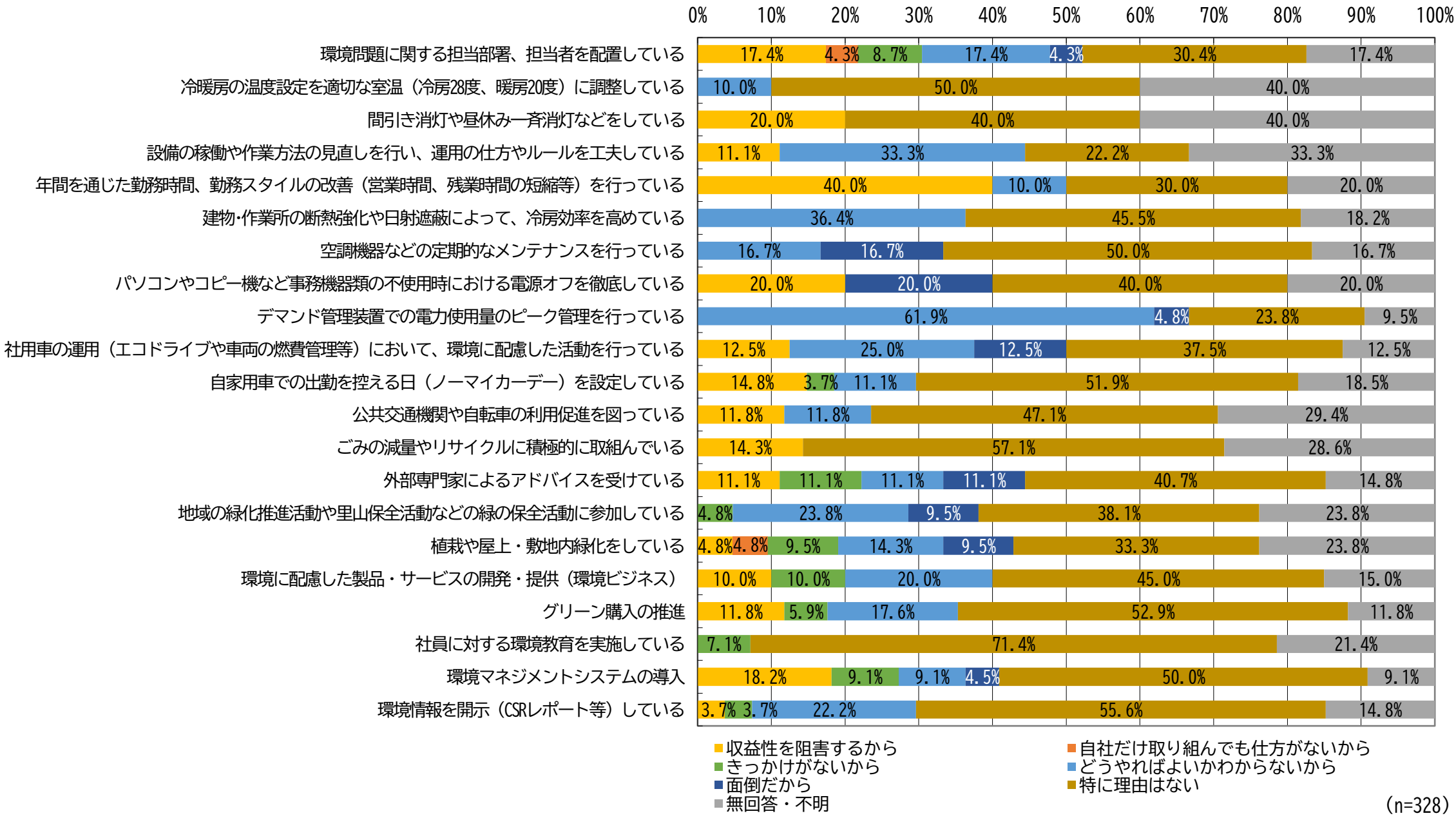


(n=1134)

地球温暖化防止対策として現在取り組んでいる内容は「間引き消灯や昼休み一斉消灯などを行っている」「パソコンやコピー機など事務機器類の不使用时における電源オフを徹底している」「ごみの減量やリサイクルに積極的に取り組んでいる」が最も多く、今後取り組みたい内容としては「社員に対する環境教育の実施」「環境マネジメントシステムの導入」、取り組むのが難しいと感じている内容としては「自家用車での出勤を控える日（ノーマイカーデー）の設定」「外部専門家によるアドバイス」「環境情報の開示（CSRレポート等）」が最も多い割合となっている。

【取り組むのは難しい】と回答した方は、その行動を妨げる主な理由を選んでください。

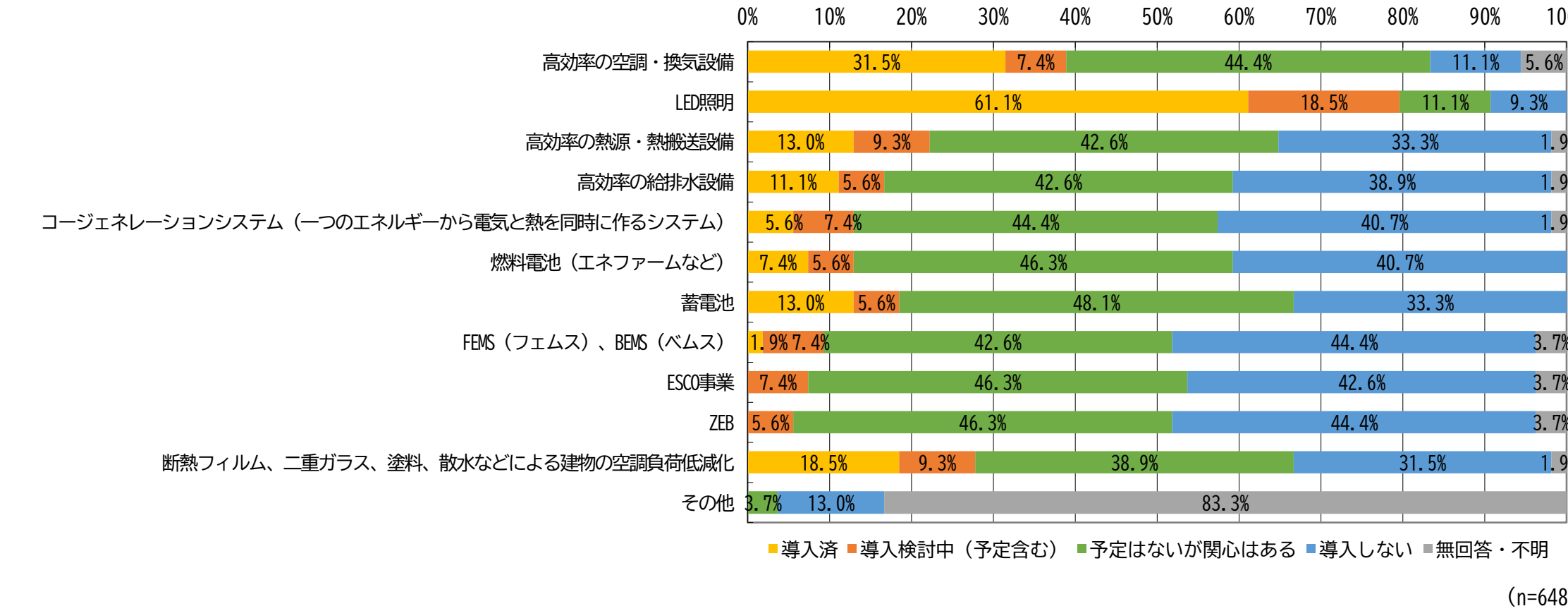
妨げる主な理由	回答数							
	収益性を阻害するから	自社だけ取り組んでも仕方がないから	きっかけがないから	どうやればよいかわからないから	面倒だから	特に理由はない	無回答・不明	回答計
環境問題に関する担当部署、担当者を配置している	4	1	2	4	1	7	4	23
冷暖房の温度設定を適切な室温（冷房28度、暖房20度）に調整している	0	0	0	1	0	5	4	10
間引き消灯や昼休み一斉消灯などをしている	1	0	0	0	0	2	2	5
設備の稼働や作業方法の見直しを行い、運用の仕方やルールを工夫している	1	0	0	3	0	2	3	9
年間を通じた勤務時間、勤務スタイルの改善（営業時間、残業時間の短縮等）を行っている	4	0	0	1	0	3	2	10
建物・作業所の断熱強化や日射遮蔽によって、冷房効率を高めている	0	0	0	4	0	5	2	11
空調機器などの定期的なメンテナンスを行っている	0	0	0	1	1	3	1	6
パソコンやコピー機など事務機器類の不使用时における電源オフを徹底している	1	0	0	0	1	2	1	5
デマンド管理装置での電力使用量のピーク管理を行っている	0	0	0	13	1	5	2	21
社用車の運用（エコドライブや車両の燃費管理等）において、環境に配慮した活動を行っている	1	0	0	2	1	3	1	8
自家用車での出勤を控える日（ノーマイカーデー）を設定している	4	0	1	3	0	14	5	27
公共交通機関や自転車の利用促進を図っている	2	0	0	2	0	8	5	17
ごみの減量やリサイクルに積極的に取り組んでいる	1	0	0	0	0	4	2	7
外部専門家によるアドバイスを受けている	3	0	3	3	3	11	4	27
地域の緑化推進活動や里山保全活動などの緑の保全活動に参加している	0	0	1	5	2	8	5	21
植栽や屋上・敷地内緑化をしている	1	1	2	3	2	7	5	21
環境に配慮した製品・サービスの開発・提供（環境ビジネス）	2	0	2	4	0	9	3	20
グリーン購入の推進	2	0	1	3	0	9	2	17
社員に対する環境教育を実施している	0	0	1	0	0	10	3	14
環境マネジメントシステムの導入	4	0	2	2	1	11	2	22
環境情報を開示（CSRレポート等）している	1	0	1	6	0	15	4	27
合計	32	2	16	60	13	143	62	328



さまざまな地球温暖化防止対策への取り組みを妨げる主な理由としては「特に理由はない」が最も多く、次いで「どうやればよいかわからないから」「収益性を阻害するから」「きっかけがないから」と続いている。また「どうやればよいかわからない」内容としては「デマンド管理装置での電力使用量のピーク管理」の割合が最も多く、「収益性を阻害する」内容としては「年間を通じた勤務時間、勤務スタイルの改善（営業時間、残業時間の短縮等）」の割合が最も多い結果となった。

問12. 地球温暖化対策のために、問11の取組からもう少し踏み込んだ省エネ設備等の導入状況や導入意向についてお尋ねします。下記の省エネ設備等における導入状況について、項目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

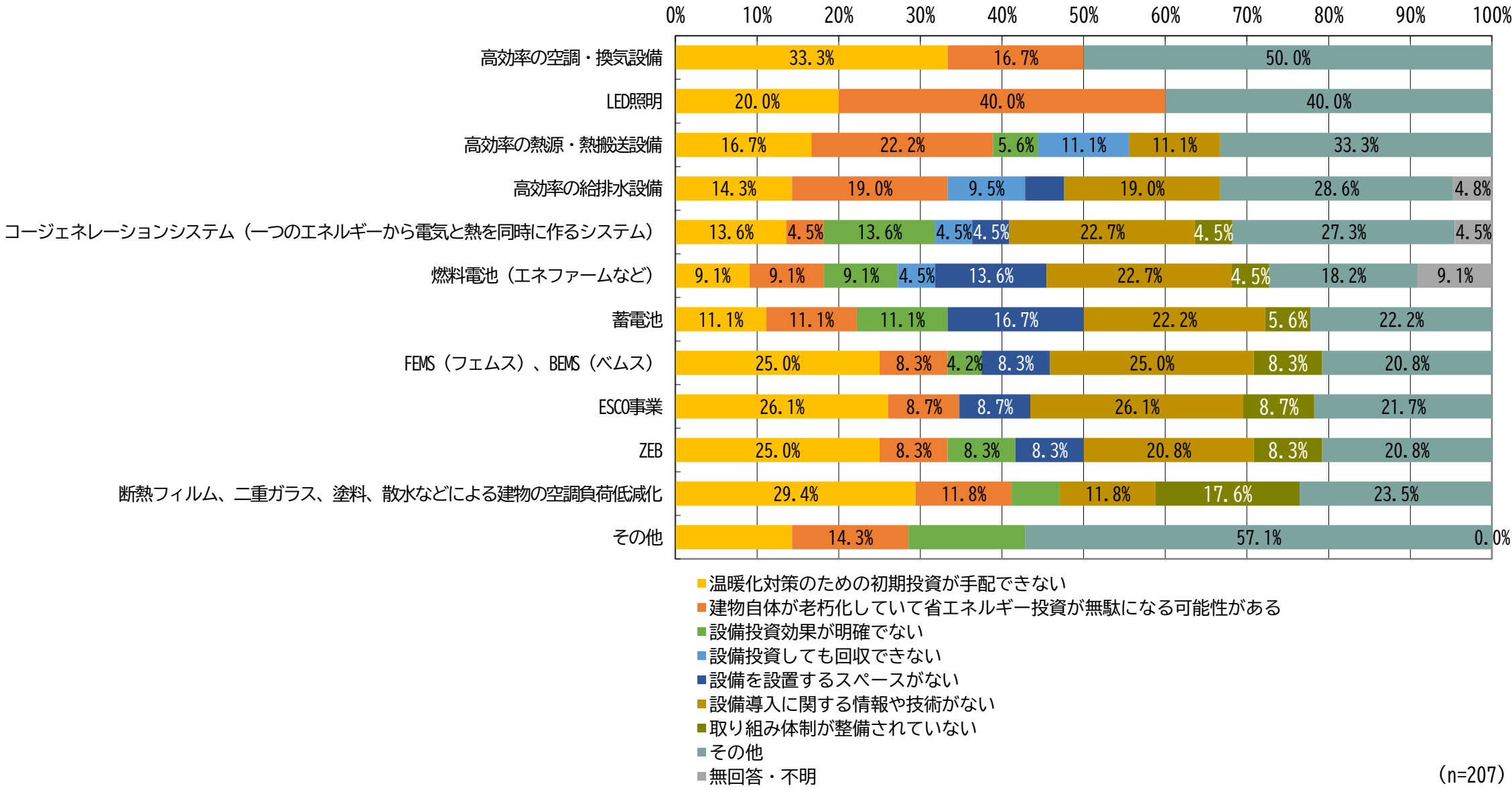
選択肢	回答数					
	導入済	導入検討中（予定含む）	予定はないが関心はある	導入しない	無回答・不明	回答計
高効率の空調・換気設備	17	4	24	6	3	54
LED照明	33	10	6	5	0	54
高効率の熱源・熱搬送設備	7	5	23	18	1	54
高効率の給排水設備	6	3	23	21	1	54
コージェネレーションシステム（一つのエネルギーから電気と熱を同時に作るシステム）	3	4	24	22	1	54
燃料電池（エネファームなど）	4	3	25	22	0	54
蓄電池	7	3	26	18	0	54
FEMS（フェムス）、BEMS（ベムス）	1	4	23	24	2	54
ESCO事業	0	4	25	23	2	54
ZEB	0	3	25	24	2	54
断熱フィルム、二重ガラス、塗料、散水などによる建物の空調負荷低減化	10	5	21	17	1	54
その他	0	0	2	7	45	54
合計	88	48	247	207	58	648



省エネ設備等の導入状況については「LED照明」が最も多く61.1%、次いで「高効率の空調・換気設備」が31.5%であった。各設備の導入意向については「予定はないが関心がある」が最も多い割合となっている。

【導入しない】を選んだ方は、その理由を選んでください。

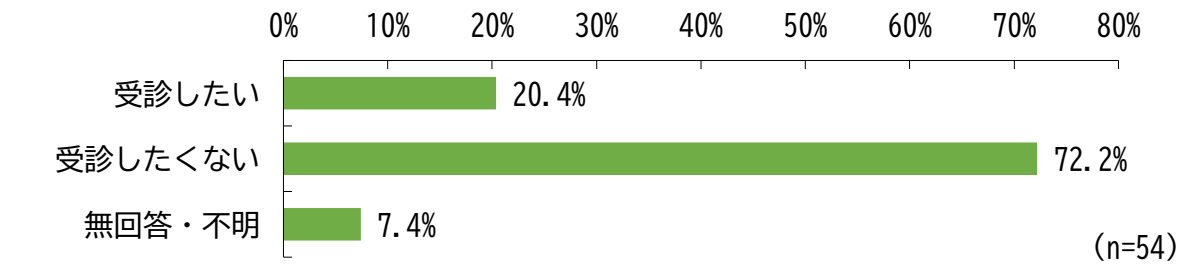
導入しない主な理由	回答数									
	温暖化対策のための初期投資が手配できない	建物自体が老朽化していて省エネルギー投資が無駄になる可能性がある	設備投資効果が明確でない	設備投資しても回収できない	設備を設置するスペースがない	設備導入に関する情報や技術がない	取り組み体制が整備されていない	その他	無回答・不明	回答計
高効率の空調・換気設備	2	1	0	0	0	0	0	3	0	6
LED照明	1	2	0	0	0	0	0	2	0	5
高効率の熱源・熱搬送設備	3	4	1	2	0	2	0	6	0	18
高効率の給排水設備	3	4	0	2	1	4	0	6	1	21
コージェネレーションシステム（一つのエネルギーから電気と熱を同時に作るシステム）	3	1	3	1	1	5	1	6	1	22
燃料電池（エネファームなど）	2	2	2	1	3	5	1	4	2	22
蓄電池	2	2	2	0	3	4	1	4	0	18
FEMS（フェムス）、BEMS（ベムス）	6	2	1	0	2	6	2	5	0	24
ESCO事業	6	2	0	0	2	6	2	5	0	23
ZEB	6	2	2	0	2	5	2	5	0	24
断熱フィルム、二重ガラス、塗料、散水などによる建物の空調負荷低減化	5	2	1	0	0	2	3	4	0	17
その他	1	1	1	0	0	0	0	4	0	7
合計	40	25	13	6	14	39	12	54	4	207



省エネ設備等を導入しない理由としては「温暖化対策のための初期投資が手配できない」が最も多く、補助制度の推進や情報の認知拡大などが課題である。

問13. おおさかスマートエネルギーセンターでは、専門機関（地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所）と連携・協力して無料省エネ診断を推進しています。今後、貴事業所は、無料省エネ診断を受診したいと思いますか。1つ選んでください。

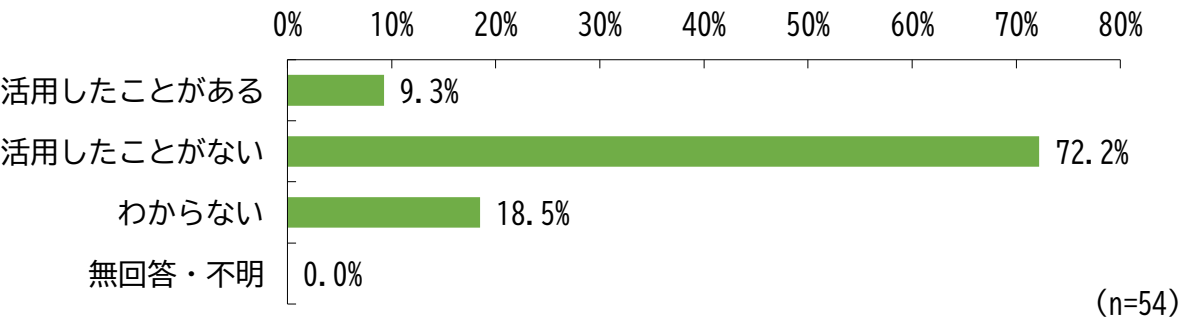
選択肢	回答数
受診したい	11
受診したくない	39
無回答・不明	4
合計	54



無料省エネ診断については「受診したくない」が72.2%を占めており、その背景などの調査を含めた対策が課題である。

問14. 貴事業所は、省エネ設備等を導入する際に、国や大阪府の補助金を活用したことがありますか。1つ選んでください。

選択肢	回答数
活用したことがある	5
活用したことがない	39
わからない	10
無回答・不明	0
合計	54



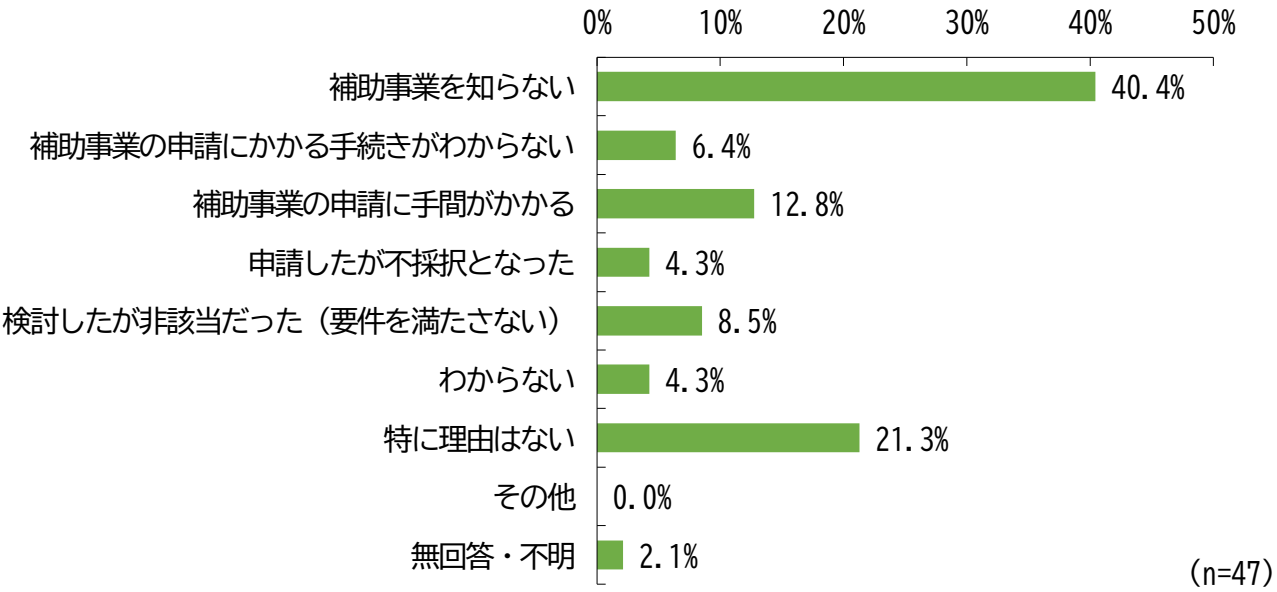
省エネ設備等に関する国や大阪府の補助金利用については「活用したことがない」が72.2%を占めている。

問15. 問14にて、【活用したことがある】を選んだ方にお尋ねします。活用した補助金の名称をご記入ください。

補助金の名称	回答数
二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金	1
LED導入補助金	1
令和4年度省エネルギー投資促進支援事業補助金	1
事業の効率化の補助金（IT補助金など）	1

問16. 問14にて、【活用したことがない】を選んだ方にお尋ねします。活用したことがない理由としてあてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）

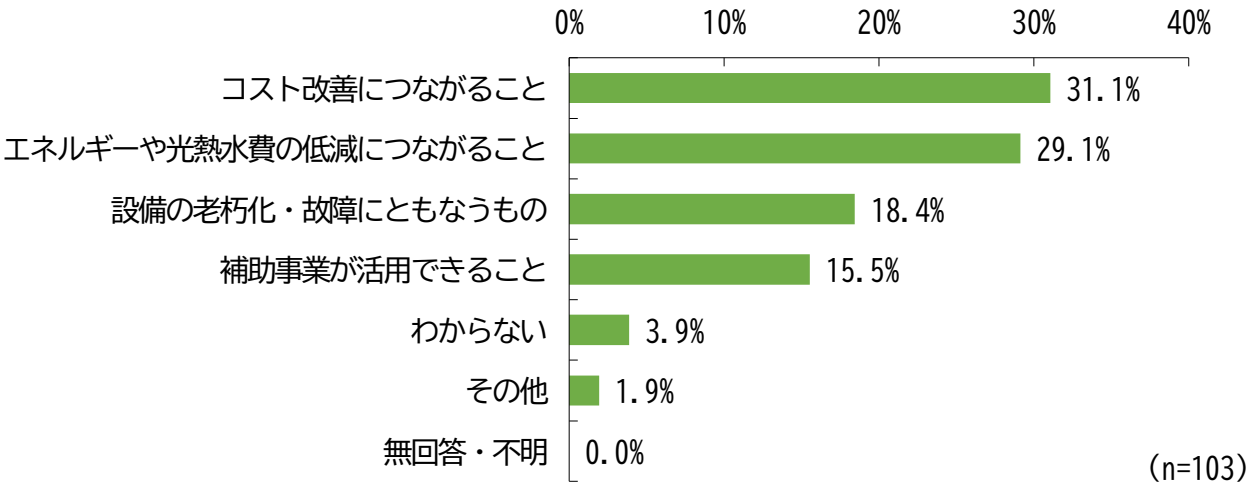
選択肢	回答数
補助事業を知らない	19
補助事業の申請にかかる手続きがわからない	3
補助事業の申請に手間がかかる	6
申請したが不採択となった	2
検討したが非該当だった（要件を満たさない）	4
わからない	2
特に理由はない	10
その他	0
無回答・不明	1
合計	47



省エネ設備等に関する国や大阪府の補助金を活用したことがない理由については「補助事業を知らない」が最も多く40.4%を占めている。情報提供を含めた認知拡大が今後の課題である。

問17. 貴事業所は、省エネ設備投資を行う際の条件は何だと思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）

選択肢	回答数
コスト改善につながること	32
エネルギーや光熱水費の低減につながること	30
設備の老朽化・故障にともなうもの	19
補助事業が活用できること	16
わからない	4
その他	2
無回答・不明	0
合計	103

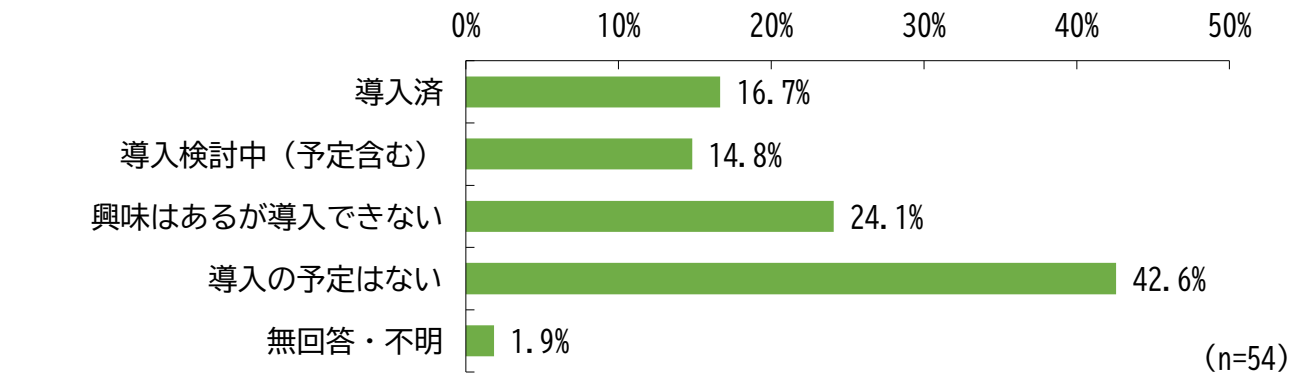


省エネ設備投資を行う際の条件については「コスト改善につながること」が最も多く31.1%、次いで「エネルギーや光熱水費の低減につながること」が29.1%となっている。

4. 貴事業所における再生可能エネルギーの利用について

問18. 貴事業所では、再生可能エネルギーを利用した機器、製品を導入していますか。1つ選んでください。

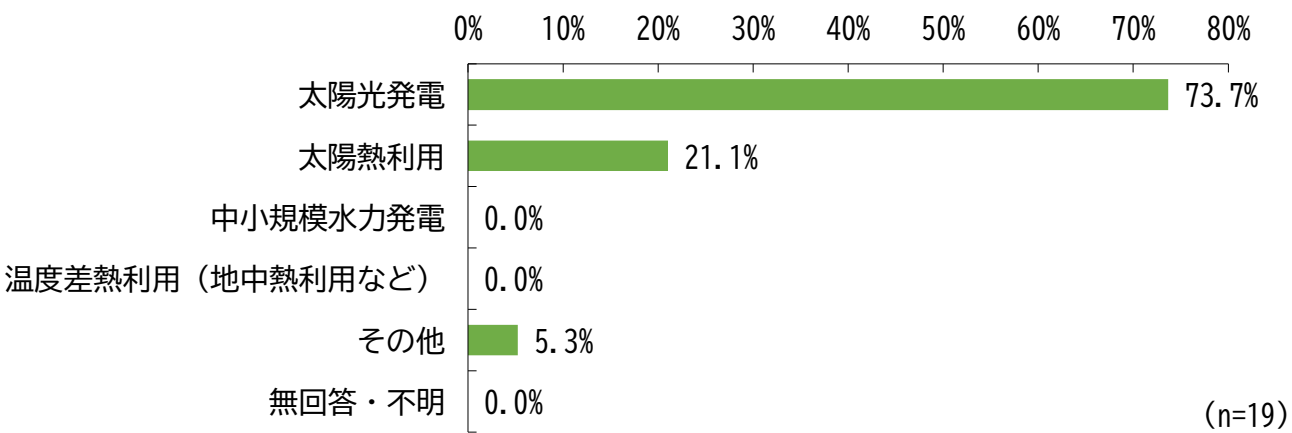
選択肢	回答数
導入済	9
導入検討中（予定含む）	8
興味はあるが導入できない	13
導入の予定はない	23
無回答・不明	1
合計	54



再生可能エネルギーを利用した機器、製品の導入状況については「導入の予定はない」が最も多く42.6%、次いで「興味はあるが導入できない」が24.1%となっている。

問19. 問18にて、【導入済】または【導入検討中（予定含む）】を選んだ方にお尋ねします。どのような機器、製品を導入（または導入を検討）していますか。あてはまるものすべてを選んでください。

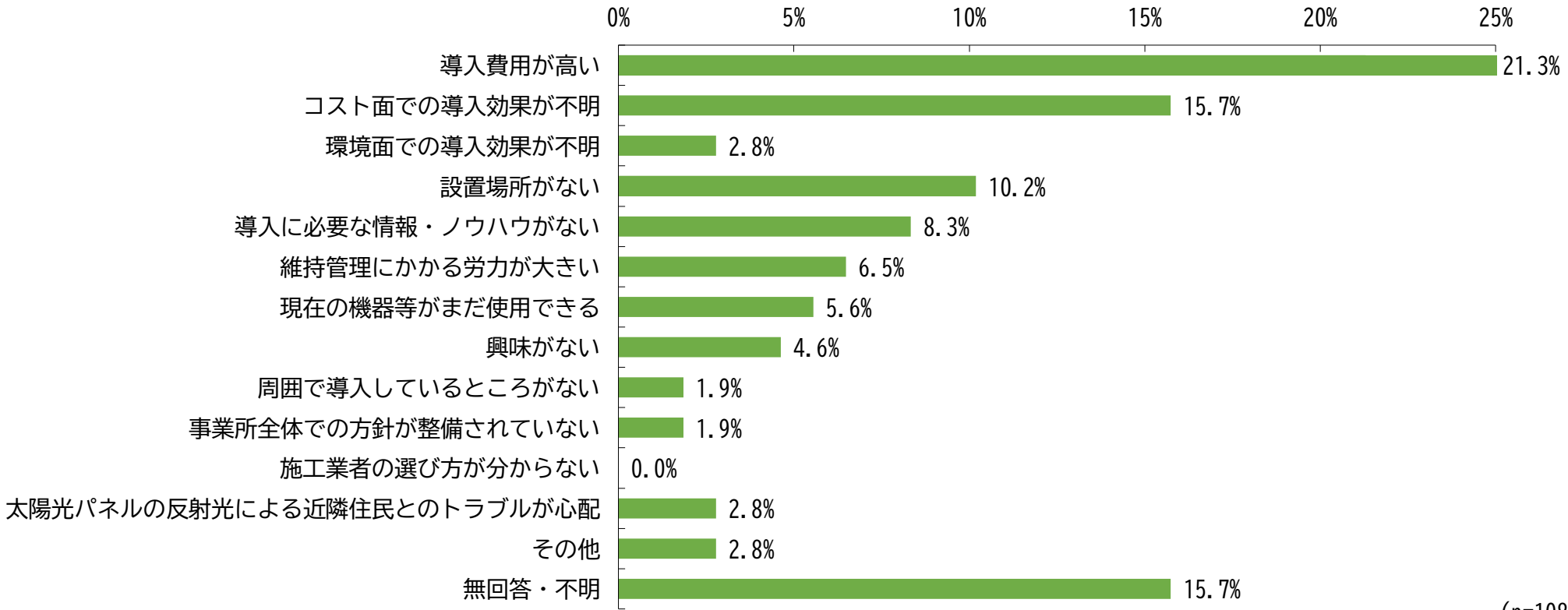
選択肢	回答数
太陽光発電	14
太陽熱利用	4
中小規模水力発電	0
温度差熱利用（地中熱利用など）	0
その他	1
無回答・不明	0
合計	19



再生可能エネルギーを利用した機器、製品などの導入設備については「太陽光発電」が最も多く73.7%を占めている。

問20. 問18にて、【興味はあるが、導入できない】または【導入の予定はない】を選んだ方にお尋ねします。導入する予定がない最大の理由は何ですか。3つ選んでください。

選択肢	回答数
導入費用が高い	23
コスト面での導入効果が不明	17
環境面での導入効果が不明	3
設置場所がない	11
導入に必要な情報・ノウハウがない	9
維持管理にかかる労力が大きい	7
現在の機器等がまだ使用できる	6
興味がない	5
周囲で導入しているところがない	2
事業所全体での方針が整備されていない	2
施工業者の選び方が分からない	0
太陽光パネルの反射光による近隣住民とのトラブルが心配	3
その他	3
無回答・不明	17
合計	108

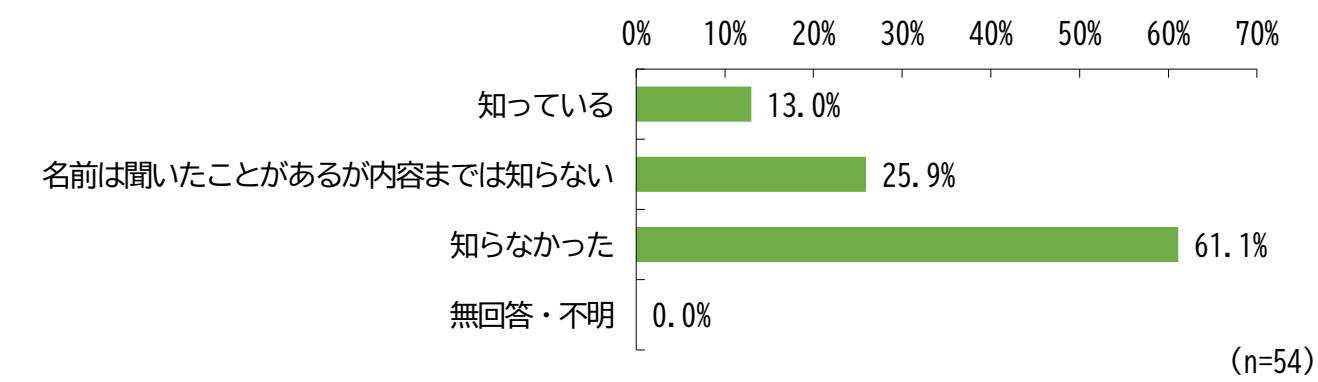


(n=108)

再生可能エネルギーを利用した機器、製品などを導入しない理由としては「導入費用が高い」が最も多く21.3%、次いで「コスト面での導入効果が不明」が15.7%となっており、費用面でのアプローチも今後の課題である。

問21. 貴事業所は、初期費用無しで太陽光発電等が設置できるPPAモデル事業をご存知ですか。1つ選んでください。

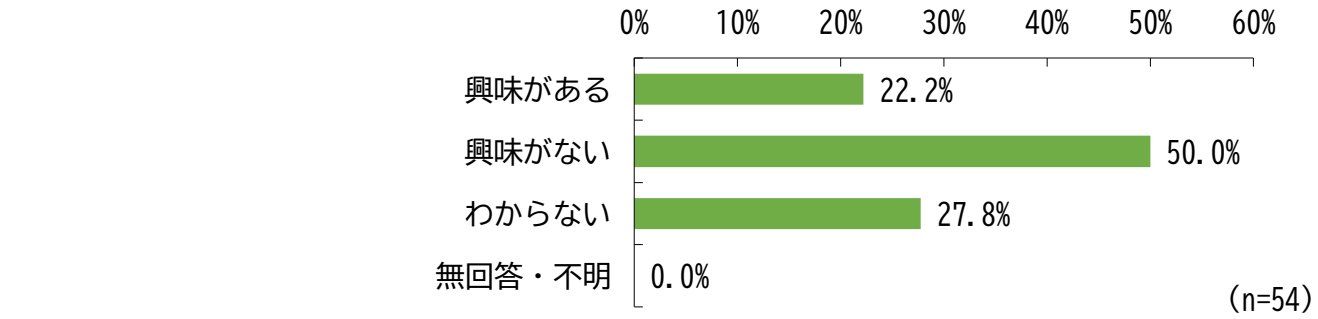
選択肢	回答数
知っている	7
名前は聞いたことがあるが内容までは知らない	14
知らなかった	33
無回答・不明	0
合計	54



太陽光発電における「PPAモデル事業」の認知については「知らなかった」が最も多く、全体の61.1%を占めている。

問22. 貴事業所は、このPPAモデル事業に興味がありますか。1つ選んでください。

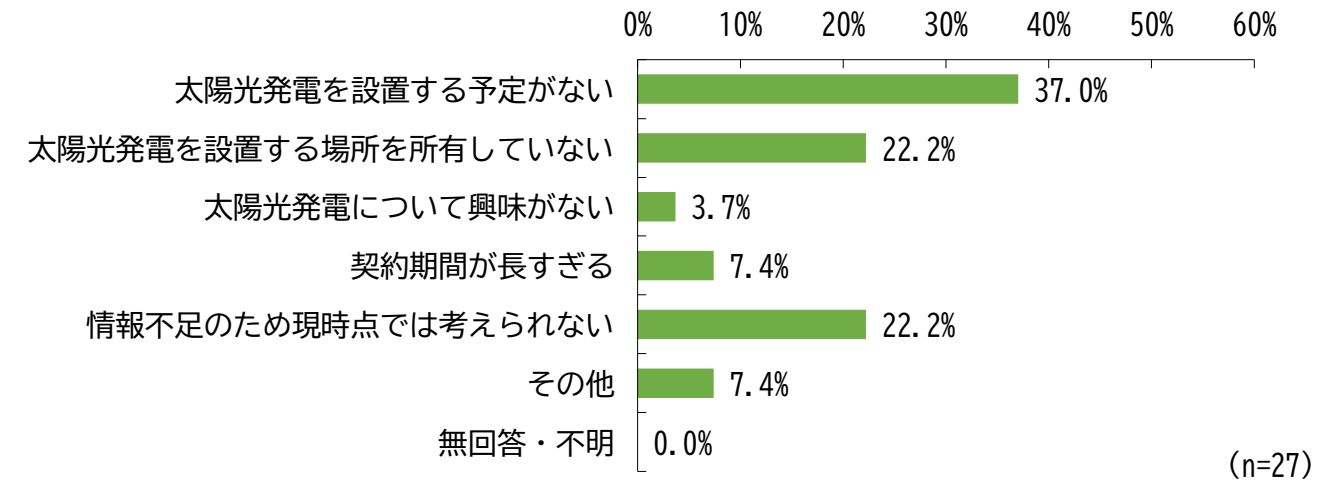
選択肢	回答数
興味がある	12
興味がない	27
わからない	15
無回答・不明	0
合計	54



「PPAモデル事業」については「興味がない」が全体の50.0%となっており、半数を占めている。

問23. 問22で、【興味がない】を選んだ方にお聞きます。その理由は何ですか。1つ選んでください。

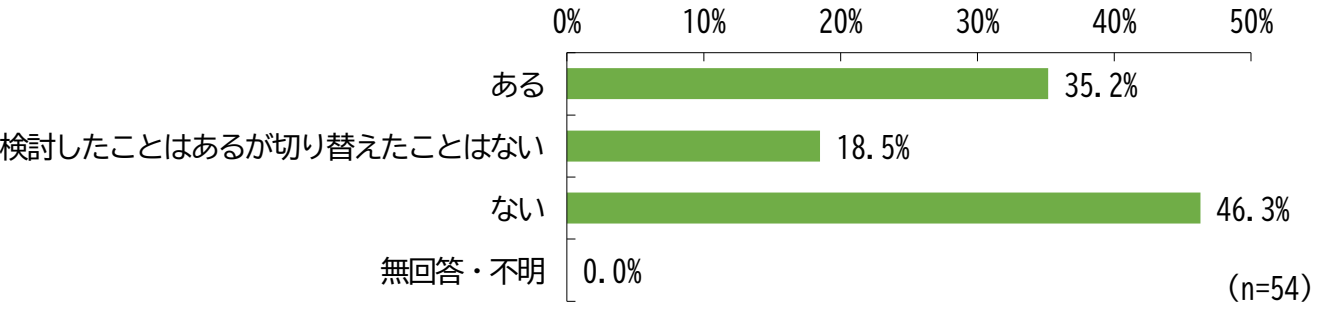
選択肢	回答数
太陽光発電を設置する予定がない	10
太陽光発電を設置する場所を所有していない	6
太陽光発電について興味がない	1
契約期間が長すぎる	2
情報不足のため現時点では考えられない	6
その他	2
無回答・不明	0
合計	27



「PPAモデル事業」に対して興味がない理由については「太陽光発電を設置する予定がない」が最も多く37.0%、次いで「太陽光発電を設置する場所を所有していない」と「情報不足のため現時点では考えられない」がいずれも22.2%となっている。

問24. 2016年（平成28年）4月から始まった電力の小売り全面自由化により、電気の供給業者（電力会社）や料金メニューを自由に選べるようになりました。貴事業所はこれまで電気の契約先（電力会社）を切り替えたことがありますか。1つ選んでください。

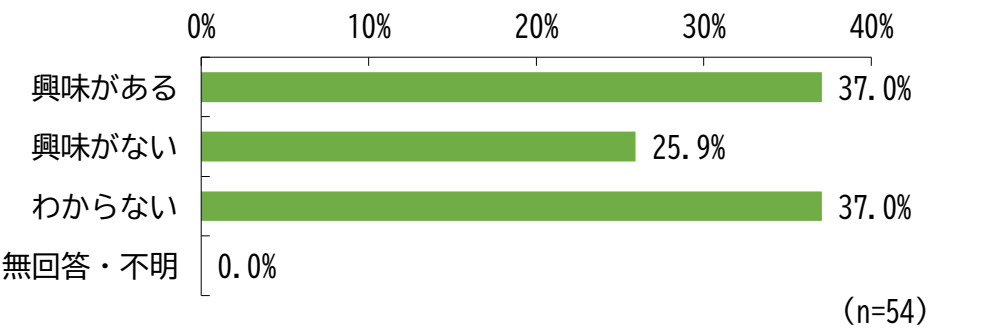
選択肢	回答数
ある	19
検討したことはあるが切り替えたことはない	10
ない	25
無回答・不明	0
合計	54



電気の契約先（電力会社）の切り替え有無については「ない」が最も多く46.3%、次いで「ある」が35.2%、「検討したことはあるが切り替えたことはない」が18.5%であった。

問25. 貴事業所は、RE100（企業が自らの企業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギー由来の電力で賄うことを目指す国際的な取組）に興味がありますか。1つ選んでください。

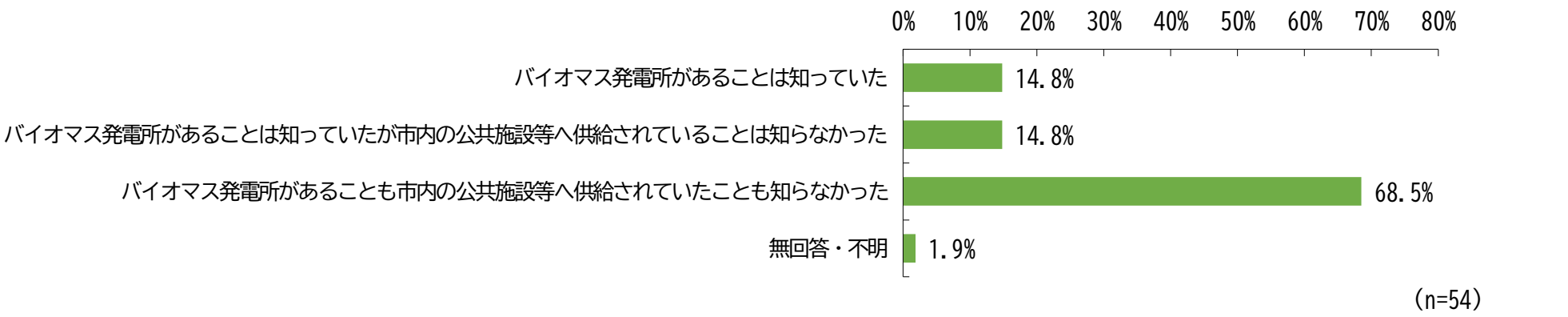
選択肢	回答数
興味がある	20
興味がない	14
わからない	20
無回答・不明	0
合計	54



RE100については「興味がある」と「わからない」がいずれも37.0%となっている。

問26. 貴事業所は、市内に木質バイオマス発電所があり、そこで発電した電力を市内の公共施設へ供給していることをご存知でしたか。1つ選んでください。

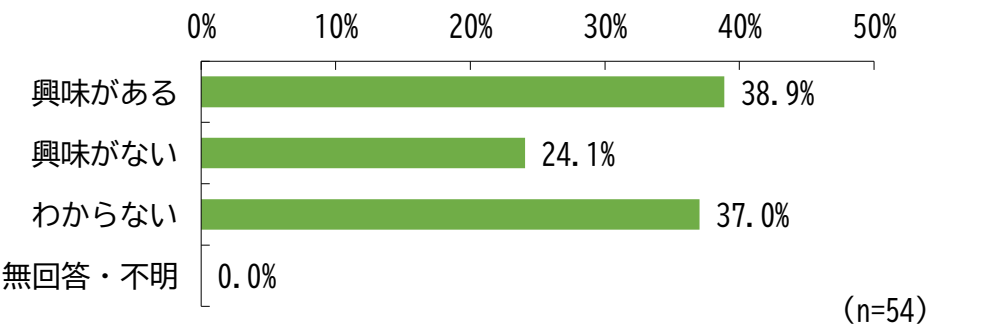
選択肢	回答数
バイオマス発電所があることは知っていた	8
バイオマス発電所があることは知っていたが市内の公共施設等へ供給されていることは知らなかった	8
バイオマス発電所があることも市内の公共施設等へ供給されていたことも知らなかった	37
無回答・不明	1
合計	54



市内の木質バイオマス発電所については「バイオマス発電所があることも市内の公共施設等へ供給されていたことも知らなかった」が最も多く68.5%となっている。一方、バイオマス発電所があることを知っていたのは全体の約30%程度であり、今後の認知拡大が課題である。

問27. 貴事業所は、このバイオマス発電所で生み出された電力を公共施設だけでなく民間企業等へ供給できることに興味がありますか。1つ選んでください。

選択肢	回答数
興味がある	21
興味がない	13
わからない	20
無回答・不明	0
合計	54

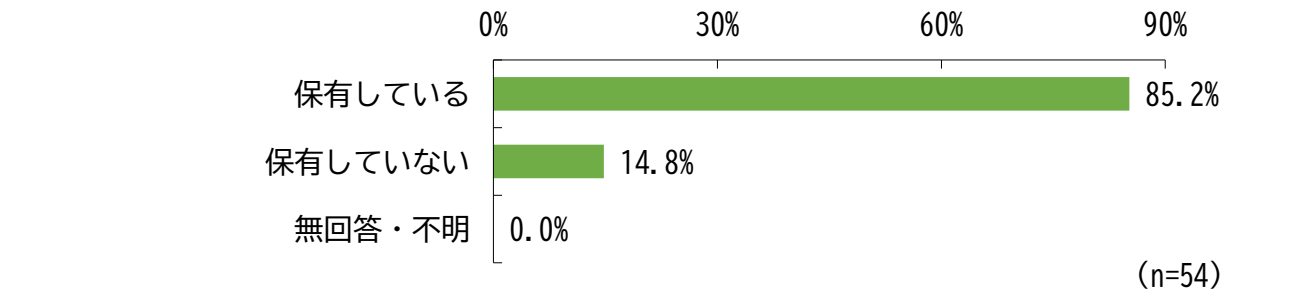


バイオマス発電所からの電力供給については「興味がある」が38.9%、次いで「わからない」が37.0%となっている。

5. 社用車の利用について

問28. 貴事業所では自動車を保有していますか。1つ選んでください。

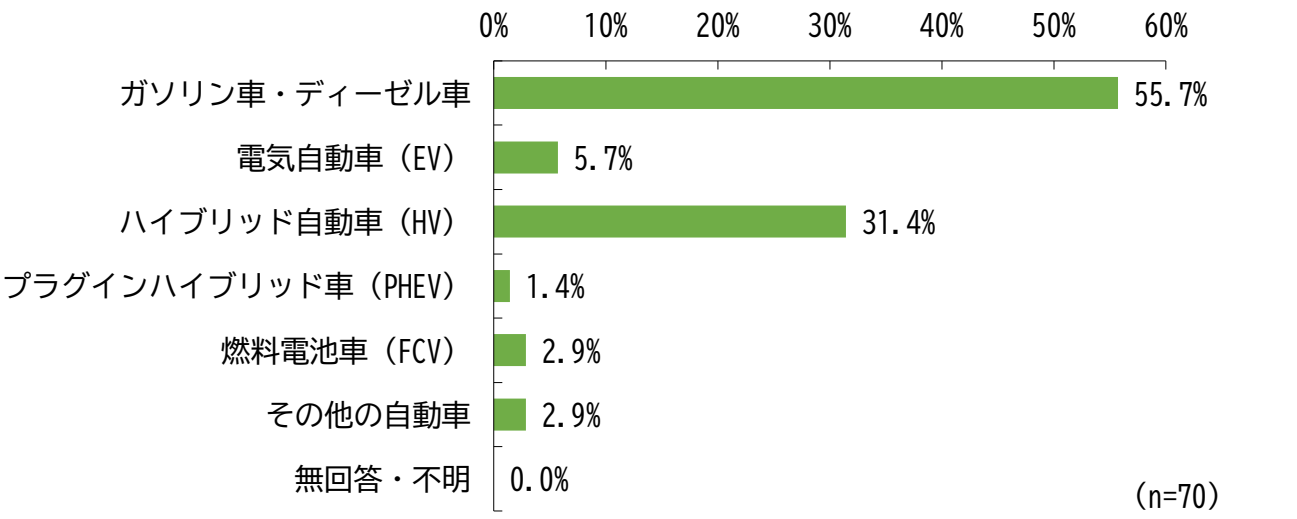
選択肢	回答数
保有している	46
保有していない	8
無回答・不明	0
合計	54



家庭での自動車保有については「保有している」が85.2%で、「保有していない」が14.8%であった。

問29. 問28にて、【保有している】を選んだ方にお尋ねします。保有している自動車の種類について、あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）

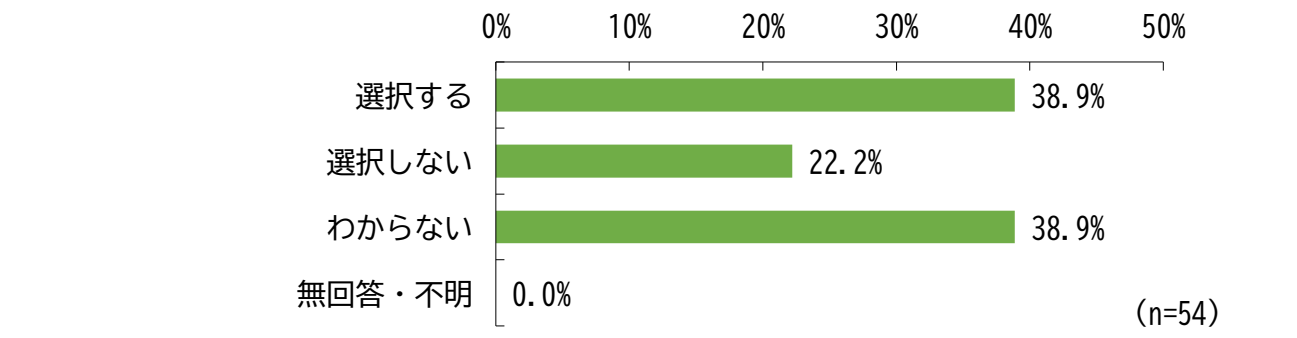
選択肢	回答数
ガソリン車・ディーゼル車	39
電気自動車（EV）	4
ハイブリッド自動車（HV）	22
プラグインハイブリッド車（PHEV）	1
燃料電池車（FCV）	2
その他の自動車	2
無回答・不明	0
合計	70



事業所における保有自動車の種類としては「ガソリン車・ディーゼル車」が最も多く55.7%、次いで「ハイブリッド自動車（HV）」が31.4%であった。

問30. 現在使用している自動車を買換える、又は新たに購入する際、走行時にCO2等の排出ガスを出さない電気自動車をはじめとしたゼロエミッション車を選択したいと思いますか。1つ選んでください。

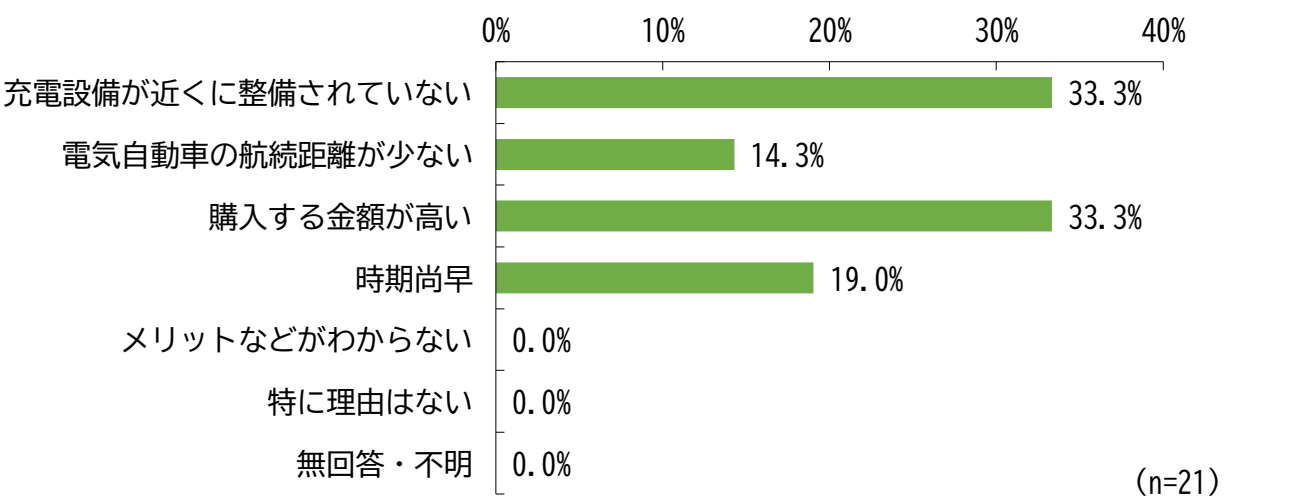
選択肢	回答数
選択する	21
選択しない	12
わからない	21
無回答・不明	0
合計	54



自動車購入時における「電気自動車をはじめとしたゼロエミッション車」の選択意向については「選択する」と「わからない」が多く、いずれも38.9%となっている。

問31. 問30にて、【選択しない】を選んだ方にお尋ねします。選択しない理由としてあてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）

選択肢	回答数
充電設備が近くに整備されていない	7
電気自動車の航続距離が少ない	3
購入する金額が高い	7
時期尚早	4
メリットなどがわからない	0
特に理由はない	0
無回答・不明	0
合計	21

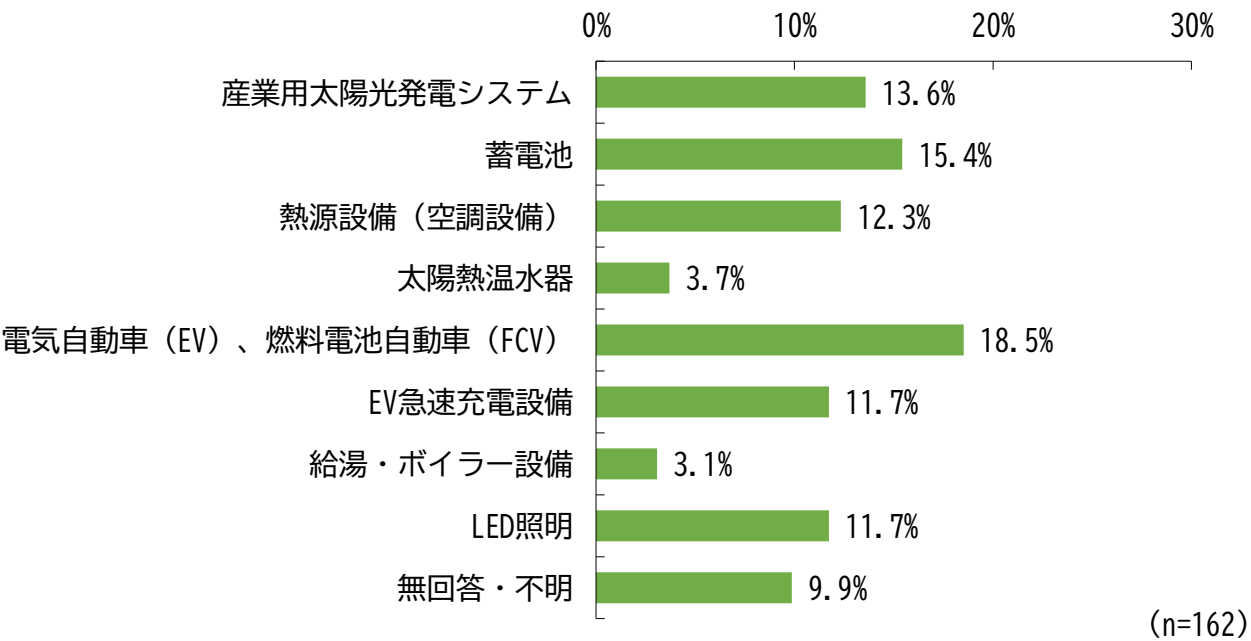


「電気自動車をはじめとしたゼロエミッション車」を購入しない理由としては「充電設備が近くに整備されていない」と「購入する金額が高い」がいずれも33.3%と最も多く、次いで「時期尚早」が19.0%となっている。

6. 大東市の地球温暖化対策について

問32. 貴事業所は、地球温暖化対策として、どんな設備の補助制度を創設してほしいですか。3つ選んでください。

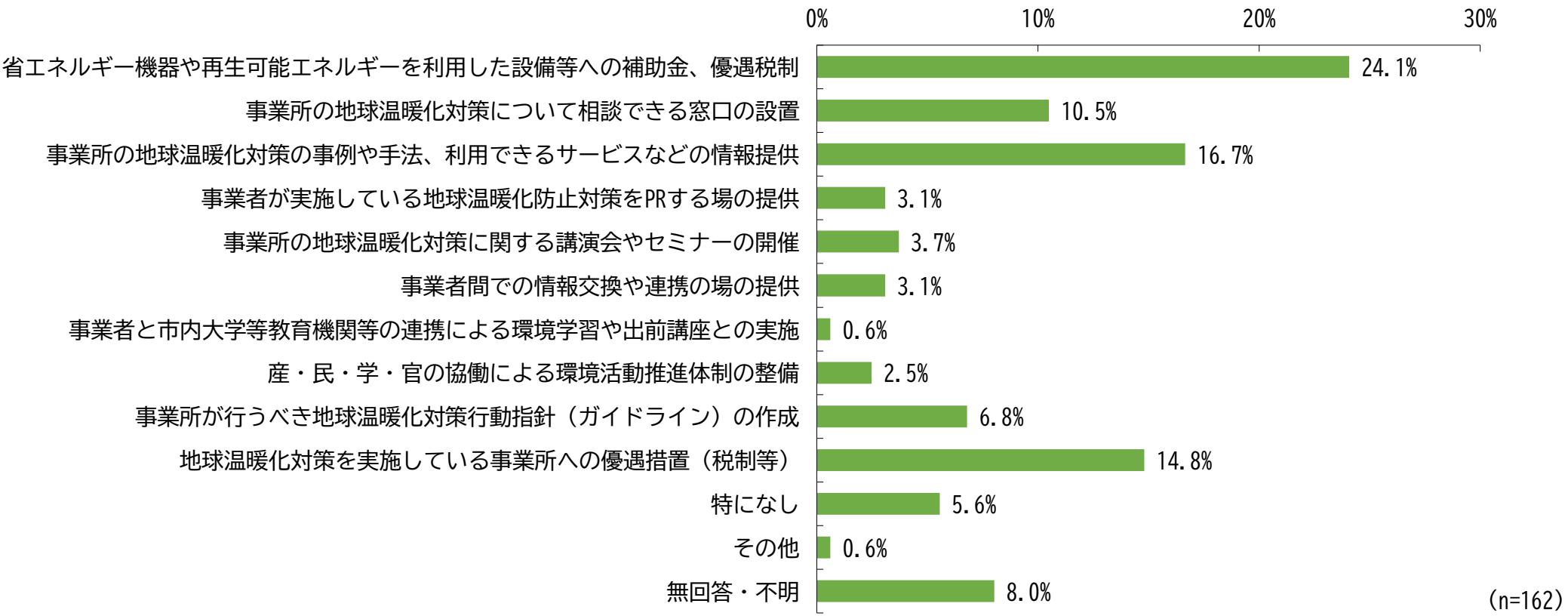
選択肢	回答数
産業用太陽光発電システム	22
蓄電池	25
熱源設備（空調設備）	20
太陽熱温水器	6
電気自動車（EV）、燃料電池自動車（FCV）	30
EV急速充電設備	19
給湯・ボイラー設備	5
LED照明	19
無回答・不明	16
合計	162



補助制度の創設を期待する設備としては「電気自動車（EV）、燃料電池自動車（FCV）」が18.5%と最も多く、次いで「蓄電池」が15.4%、「産業用太陽光発電システム」が13.6%となっている。

問33. 貴事業所において、地球温暖化対策に取り組むにあたり、市が実施すると望ましいサポート等がありますか。3つ選んでください。

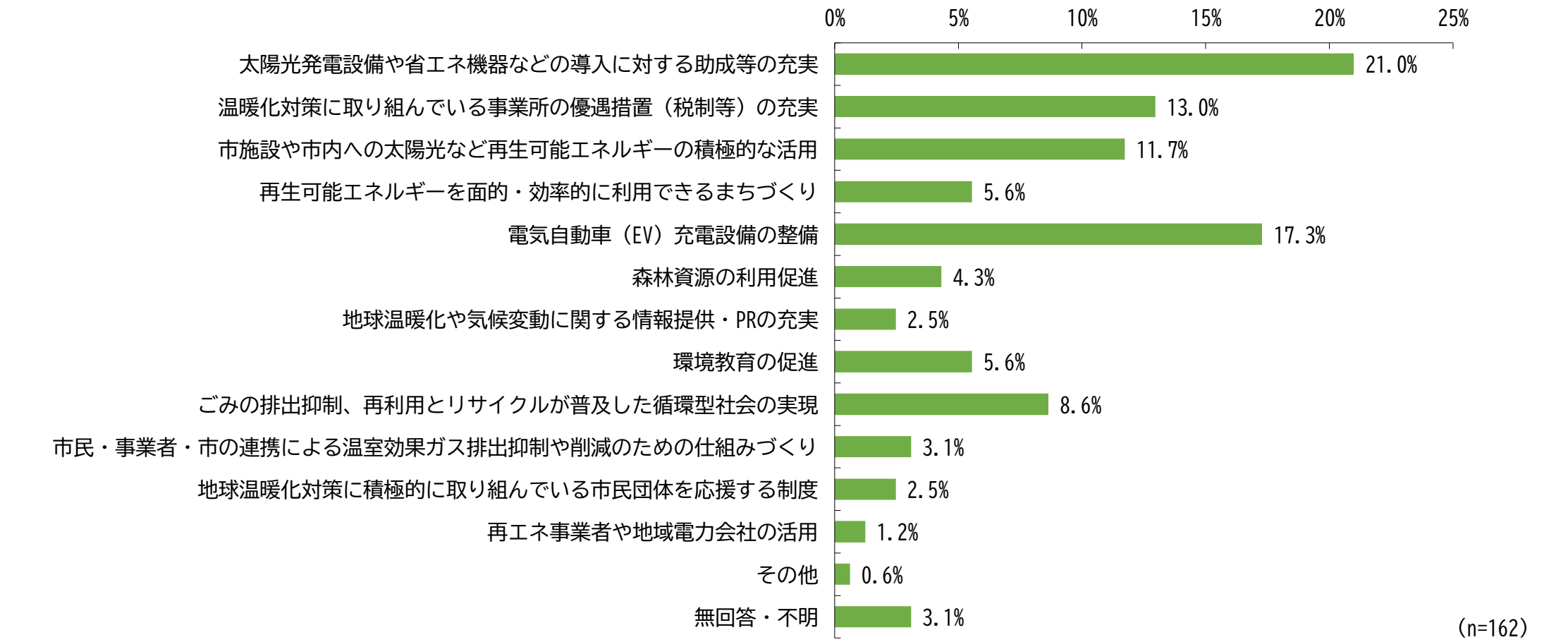
選択肢	回答数
省エネルギー機器や再生可能エネルギーを利用した設備等への補助金、優遇税制	39
事業所の地球温暖化対策について相談できる窓口の設置	17
事業所の地球温暖化対策の事例や手法、利用できるサービスなどの情報提供	27
事業者が実施している地球温暖化防止対策をPRする場の提供	5
事業所の地球温暖化対策に関する講演会やセミナーの開催	6
事業者間での情報交換や連携の場の提供	5
事業者と市内大学等教育機関等の連携による環境学習や出前講座との実施	1
産・民・学・官の協働による環境活動推進体制の整備	4
事業所が行うべき地球温暖化対策行動指針（ガイドライン）の作成	11
地球温暖化対策を実施している事業所への優遇措置（税制等）	24
特になし	9
その他	1
無回答・不明	13
合計	162



地球温暖化対策に取り組むにあたり市に期待するサポート等としては「省エネルギー機器や再生可能エネルギーを利用した設備等への補助金、優遇税制」が最も多く24.1%、次いで「事業所の地球温暖化対策の事例や手法、利用できるサービスなどの情報提供」が16.7%、「地球温暖化対策を実施している事業所への優遇措置（税制等）」が14.8%となっている。

問34. 大東市全体として、地球温暖化対策のために2030年頃までに重視すべき方向性は何だと思われますか。3つ選んでください。

選択肢	回答数
太陽光発電設備や省エネ機器などの導入に対する助成等の充実	34
温暖化対策に取り組んでいる事業所の優遇措置（税制等）の充実	21
市施設や市内への太陽光など再生可能エネルギーの積極的な活用	19
再生可能エネルギーを面的・効率的に利用できるまちづくり	9
電気自動車（EV）充電設備の整備	28
森林資源の利用促進	7
地球温暖化や気候変動に関する情報提供・PRの充実	4
環境教育の促進	9
ごみの排出抑制、再利用とリサイクルが普及した循環型社会の実現	14
市民・事業者・市の連携による温室効果ガス排出抑制や削減のための仕組みづくり	5
地球温暖化対策に積極的に取り組んでいる市民団体を応援する制度	4
再エネ事業者や地域電力会社の活用	2
その他	1
無回答・不明	5
合計	162



地球温暖化対策として大東市が重視すべき方向性については「太陽光発電設備や省エネ機器などの導入に対する助成等の充実」が最も多く21.0%、次いで「電気自動車（EV）充電設備の整備」が17.3%となっている。

問35. 最後にご意見やご要望、ご提案がありましたらご記入ください。

別紙参照。